



KYOTO
COLLEGE OF NURSING

2024 年度 授業概要 (1 年次)



学校法人 京都育英館

京都看護大学

目次（2024年度1年次）

基礎ゼミ 1	1	公衆衛生学	21
基礎ゼミ 2	2	保健統計学入門	22
ライフスパンと人間発達	3	生化学	23
生命の不思議	4	病理学	24
生命哲学	5	クリティカルシンキング	25
臨床人間学	6	人間関係の心理学	26
文学にみる生老病死	7	看護学原論	27
基礎英語	8	医療・看護倫理	28
中級英語	9	地域包括ケア論	29
基礎中国語	10	地域包括ケア論演習	30
人間と生活行動 1	11	生活行動逸脱看護 1	31
人間と生活行動 2	12	生活行動逸脱看護 2	32
人間と生活行動 3	13	生活行動逸脱看護 3	33
環境論	14	生活行動看護演習 1	34
微生物学	15	生活行動看護演習 2	35
薬理学	16	生活行動看護演習 3	36
社会学	17	人間のライフスパンと生活行動実習 1 ...	37
現代家族論	18	地域包括ケア実習 1	38
京都の文化と暮らし	19	地域包括ケア実習 2	39
情報リテラシー	20		

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
基礎ゼミ1	BNNBL01E01	202210101	1(前)	1(15)	必修
担当教員	◎吉田 えり(実務歴:看護師として病院に15年勤務) 宇野真由美(実務歴:看護師として病院に7年勤務) 田村 葉子(実務歴:看護師として病院に10年勤務) 三林 聖司(実務歴:准看護師・看護師として病院に22年勤務) 鱈坂 由紀(実務歴:看護師として病院に3年勤務) 中森 美季(実務歴:看護師として病院に5年勤務) 中村 正子(実務歴:看護師として病院に10年間勤務、訪問看護師として2年間勤務) 吉田 玉美(実務歴:看護師として病院に17年勤務)				
概要	大学で学ぶことの目的を明確化し、主体的学修への動機づけを図る。 高校と大学の違いを理解し、主体的学修への移行を促すために、レポート作成、ノートテイキング、グループディスカッションなどの 基礎的スキル や、図書館、文献検索エンジン、学修支援アプリ、e-learningシステムなどの 学修環境の活用法 について学ぶ。少人数の ゼミナール形式 で行う。				
到達目標	1. 大学で学ぶことの目的を明確化できる。 2. 学修環境を整え、主体的学修へ移行できる。 3. 自己で設定したテーマに沿って論理的なレポートを記載できる。				
関連科目	基礎ゼミ2				
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法	
	定期試験(レポート)	50%	到達目標3-50%	コメントを記述し返却	
	授業参画	22%	到達目標1・2-22%	授業中のフィードバック	
	事前・事後課題	28%	到達目標1・2・3-28%	次回授業時に担当教員から解説	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践
回	学修内容		予習・復習内容		取組時間
1	【全体】ガイダンス 1.ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーからみた本科目の位置づけ 【全体→グループ別】 2.学修に必要な準備を整えよう(iPadの活用) ◎Microsoft365 インストールの確認 ◇学内コミュニケーションツールのマナー ・Outlookを使おう ◇課題提出のマナー ・Teamsを使おう ・Wordを使おう		【予習】 1.本学のHPでディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを読む。 2.シラバスを読む。 【復習】 1.京都看護大学の学生としてどのような能力を身に付けたいと考えたか。そのために、本科目をどのように学修するかを記述する。 2.自分自身に必要なマナーを明確にし、どのように行動化するかを記述する。 ＊以降、課題の「記述する」は、Wordで行う。 ＊課題はTeamsから期限内に提出する。		予習 2時間 復習 2時間
2	【グループ別】 ◇アカデミック・スキルを身に付けよう① 大学での学び方を理解しよう!その1 ◇学修環境の活用方法を考えよう ・大学の学修環境を知るために大学内を探検しよう ・大学の学修での活用についてまとめよう ・探検で分かったことをゼミで発表しよう		【予習】 1.修学ガイドブックの配置図で大学内の設備を確認する。 ・授業時、修学ガイドブックを持参する。 【復習】 1.発表した大学内の設備の活用方法を、理由と合わせて記述する。		予習 2時間 復習 2時間

3	<p>【グループ別】</p> <p>◇アカデミック・スキルを身に着けよう②</p> <p>大学での学び方を理解しよう！その2</p> <p>看護学生として必要なマナーについて考えよう！</p> <p>◇研究室の訪問方法、学内コミュニケーションツール、課題提出のマナーについて振り返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Outlook、Teams、Wordの活用状況 ・なぜ、マナーが必要か、ゼミで話し合おう ・挨拶(研究室の訪問・メールでのメッセージ)を検討しよう 	<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.看護学生として大学・外で必要なマナーを記述する。 2.教員へのメール・研究室訪問のマナーを記述する。 <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ゼミで話し合った挨拶を取り入れ、入学後から実践してきたマナーを振り返り、今後の行動について記述する。 	予習 2時間 復習 2時間
4	<p>【グループ別】</p> <p>◇アカデミック・スキルを身に着けよう③</p> <p>大学での学び方を理解しよう！その3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習の必要性、ノートのとり方、授業への参加方法を振り返ろう！ ・なぜグループ学修があるのか、目的、参加の方法を理解しよう！ ・効果的な学修(個人・グループ)について、討論しよう 	<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.高校と大学では学修の仕方にどのような違いがあるかについて調べて記述する。 <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.効果的な学修について、ゼミでの討論を取り入れ考えたことを記述する。 	予習 2時間 復習 2時間
5	<p>【グループ別】</p> <p>◇アカデミック・スキルを身に着けよう④</p> <p>大学での学び方を理解しよう！その4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を管理し、自分に合った学修スタイルを見つけよう ・1日の過ごし方、1週間の過ごし方を振り返ろう ・1T(～4T)の過ごし方について検討しよう ・入学前の「課題」を発表しよう ・教科書を参考にして、アカデミック・ライティングとしての課題を見つけよう 	<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.学修について工夫していることを記述する。 2.1週間の生活と学修時間について記述する。 <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.1年次の学修に関する目標と行動計画を記述する。 2.ゼミでの学修を踏まえて、事前課題を修正し、指定された提出方法で期限内に提出する。 	予習 2時間 復習 2時間
6	<p>【グループ別】</p> <p>◇論理的なレポートを書こう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前レポートを受け取り、自己の課題を見出そう ・気づいた自己の課題について発表しよう ・グループメンバーの課題に対して、助言しよう 	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章までを読み込み、各自で要約を作成する。 <p>各グループで指定された提出方法で期限内に提出する。</p> <p>・期限:6月7日(金)13時</p> <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで指定された課題を指定された提出方法で期限内に提出する。 	予習 2時間 復習 2時間
7	<p>【グループ別】</p> <p>◇論理的なレポートを書こう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだ課題を発表しよう ・ゼミ生同士で助言をしよう 	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章～第8章までを読み、レポート(初稿)を作成する。 <p>・期限:6月28日(金)13時</p> <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで指定された課題を指定された提出方法で期限内に提出する。 	予習 2時間 復習 2時間
8	<p>【グループ別】</p> <p>◇論理的なレポートを書こう③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの修正箇所を発表し、意見交換しよう ・ゼミ生からの助言、担当教員からの助言を受け、最終レポートに繋げよう。 	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のフィードバックを手掛かりにレポート(初稿)を修正し提出する。 <p>・期限:7月19日(金)13時</p> <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終レポートとします。 ■基礎ゼミ1 最終レポート <p>・期限:8月19日(月)17時</p>	予習 2時間 復習 2時間
使用 テキスト	渡邊淳子『<改訂版>大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』、2022、研究社		
参考図書	2024年度 京都看護大学 修学ガイドブック 適宜紹介する		
教員に対する 質問方法	科目担当責任者 吉田 えり:e_yoshida@kyotokango.ac.jp 各担当教員メールアドレス 在学生HPを確認 オフィスアワー 在学生HPを確認		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
基礎ゼミ2		BNNBL03E02	202210102	1後	1(15)	必修
担当教員	◎三林 聖司/実務歴:准看護師・看護師として病院に22年勤務					
概要	<p>1.「基礎ゼミ2」では、「基礎ゼミ1」で培った力を発展させ、「読む力」、「書く力」、「ディスカッションする力」、「プレゼンテーションする力」を養うことが目的である。</p> <p>2.「基礎ゼミ1」と同じく、複数の教員が担当し、ゼミ形式で授業を行う。</p> <p>3.グループで「ウォーキングチャレンジ」に関連したテーマを設定しまとめる。</p> <p>4.ゼミでの発表と討論によって考察を深め、最後にプレゼンテーションを行う。</p> <p>5.「健康」に関連したテーマを設定し、レポートを作成する(グループ発表と異なるテーマ)。</p> <p>6.各教員は、テーマ設定から最終発表までの各段階で論理的、科学的な思考を体得できるようにそれぞれの専門的視点から助言し、学生間の討議を活性化する。</p>					
到達目標	<p>1.自身の考えを簡潔に伝えることができる。</p> <p>2.他者の意見や発表を聞いて、質問や意見を述べるができる。</p> <p>3.グループメンバーとして、グループ活動の成果に繋がるような貢献ができる。</p> <p>4.グループで「ウォーキングチャレンジ」に関連したテーマを設定し、テーマに関連する文献を引用し、内容をまとめることができる(PPT)。</p> <p>5.聞き手に伝わるプレゼンテーションができる。</p> <p>6.設定したテーマ「健康」に関する論理的なレポートを記述できる(文献を引用する)。</p>					
関連科目	基礎ゼミ1 中級ゼミ1 中級ゼミ2 課題探求ゼミ1 課題探求ゼミ2					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験 (最終レポート)	42%	到達目標:6 42%	コメントを記述し返却		
	事前・事後課題	40%	到達目標:1-5 36%	次回授業時に担当教員から解説		
	授業参加度	14%	到達目標:1-4 14%	担当教員		
	発表会	8%	到達目標:5 6%	発表会中の講評		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人の人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	
回	学修内容		予習・復習内容			取組時間
1	【全体】 ガイダンス:基礎ゼミ2の学修内容 ① ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーから見た、本科目の位置づけ ② ヘルシーキャンパスの説明 ③ 「ウォーキングチャレンジ」アプリのインストール ④ 各ゼミでグループを編成する		【事前課題】 シラバスを読み、どのような目標をもって臨むかを記述する(各ゼミで発表)。 【事後課題】 各ゼミで指定された課題を期限内に指定された方法で提出する。			予習 2時間 復習 2時間
2	【グループ】 ① 各グループで計画を立案する		【事前課題・事後課題】 各ゼミで指定された課題を期限内に指定された方法で提出する。			予習 2時間 復習 2時間
3	【グループ】 ① 発表と討論 ② 進捗状況を報告する ③ ウォーキングチャレンジの進捗状況		【事前課題・事後課題】 各ゼミで指定された課題を期限内に指定された方法で提出する。			予習 2時間 復習 2時間
4	【グループ】 ① 発表と討論 ② 進捗状況を報告する ③ ウォーキングチャレンジの進捗状況		【事前課題・事後課題】 各ゼミで指定された課題を期限内に指定された方法で提出する。			予習 2時間 復習 2時間
5	【グループ】 ① 発表と討論 ② 進捗状況を報告する ③ ウォーキングチャレンジの進捗状況		【事前課題・事後課題】 各ゼミで指定された課題を期限内に指定された方法で提出する。			予習 2時間 復習 2時間

6	【全体】 ① ヘルシーキャンパスフォーラム 参加	【事前課題・事後課題】 指定された課題を 期限内に指定された方法で提出する。	予習 2時間 復習 2時間
7	【グループ】 ① 発表の準備	【事前課題・事後課題】 各ゼミで指定された課題を 期限内に指定された方法で提出する。 【最終レポート(添削)】 最終レポートを担当教員に指定された方法で 提出し、添削してもらう。	予習 2時間 復習 2時間
8	【グループ】 ① 成果の発表 PowerPointを使用して、 調べた内容をプレゼンテーションする。 ② 質疑応答	【事前課題・事後課題】 各ゼミで指定された課題を 期限内に指定された方法で提出する。	予習 2時間 復習 2時間
使用 テキスト	〈改訂版〉渡邊淳子『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』、2023、研究社。		
参考図書	適宜紹介する		
教員に対する 質問方法	科目担当責任者:三林聖司 三林 聖司:s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp * オフィスアワー 在校生HPを確認		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
ライフスパンと人間発達		BNNHU01L01	202220101	1前(1T)	1(15)	必修
担当教員	◎吉田 えり	実務歴	有	看護師として病院に15年勤務		
担当教員	佐野 千尋	実務歴	有	看護師として病院に5年半勤務		
概要	人間は、生まれてから死ぬまで、その ライフスパン において身体的・心理的・社会的諸相が互いに機能的に関連しあい、全体としてダイナミックに 発達 を続けていく存在である。また、胎児期、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、成熟期、成人後期(老年期)という各期に特徴的な健康状態を示す。このような 人間のライフスパン を通じた健康のありようから、 人間理解 を深める。					
到達目標	1) 人間の成長発達に関わる定義や理論、定説について説明できる。 2) 発達段階各期の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。 3) 発達段階の各期にある対象への看護職としての支援のあり方を述べるができる。					
関連科目	人間と生活行動1～7 人間のライフスパンと生活行動実習1					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価		評価に対するフィードバック方法	
	定期試験	75%	1)30% 2)30% 3)15%		定期試験レビューで説明	
	課題	10%	1)5% 2)5%		授業中にフィードバック	
	発表	15%	1)5% 2)5% 3)5%		授業中にフィードバック	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人の人間理解		◎	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション			適切な看護実践
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス 本学カリキュラムにおける位置づけ 誕生から死までのライフステージと人々の暮らし			【予習】p.2～p.16を読むこと。 【復習】エリクソンの発達理論について、各授業の発達期(乳児期・幼児前期、幼児後期、学童期、思春期、青年期、成人前期、成人中期・成熟期、成人後期)の特徴をまとめる。		予習2時間 復習2時間
2	乳児期(0～1歳)・幼児前期(1～3歳)の発達と課題			【予習】p.18～p.51を読むこと。本授業で扱う発達期の特徴を提出。 【復習】授業で提示された課題を行う。		予習2時間 復習2時間
3	幼児後期(3～6歳)・学童期(6～12歳)・思春期(12～18歳)の発達と課題			【予習】p.54～p.101を読むこと。本授業で扱う発達期の特徴を提出。 【復習】授業で提示された課題を行う。		予習2時間 復習2時間
4	青年期(18～25歳)・成人前期(20～30歳)の発達と課題			【予習】p.104～p.118を読むこと。本授業で扱う発達期の特徴を提出。 【復習】授業で提示された課題を行う。		予習2時間 復習2時間
5	成人中期・成熟期(50～70歳)の発達と課題			【予習】p.120～p.150を読むこと。本授業で扱う発達期の特徴を提出。 【復習】授業で提示された課題を行う。		予習2時間 復習2時間
6	成人後期(70代以降)の発達と課題			【予習】p.152～p.196を読むこと。本授業で扱う発達期の特徴を提出。 【復習】発達の特徴を踏まえ、関わる時の特徴を提出。		予習2時間 復習2時間
7	学修成果の発表①			【予習】ライフスパン毎の現代の発達課題を情報収集する。 【復習】授業で提示された課題を行う。		予習2時間 復習2時間
8	学修成果の発表②・まとめ			【予・復習】授業で提示された課題を行う。		予習1時間 復習1時間
使用テキスト	服部祥子(2020):生涯人間発達論 第3版 -人間への深い理解と愛情を育むために, 医学書院.					

参考図書	①系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2022年 第6版第1刷(地域包括ケア論使用テキスト) ②川島みどり監訳(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開,エルゼビア・ジャパン
教員に対する 質問方法	科目担当責任者 吉田 えり:e_yoshida@kyotokango.ac.jp 各担当教員メールアドレス 在学生HPを確認 オフィスアワー 在学生HPを確認

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生命の不思議		BNNHU01L02	202320102	1前(1T)	1(15)	選択
担当教員	◎佐藤 泰子 ・ 西中 瑤子					
概要	人間の生活行動は多様な器官・臓器の複合した働きによるものであり、この中ではさらに、組織・細胞レベルにおいて緻密で絶え間ない活動が行われている。生活行動を支援する看護師には、こうした体内の事象への理解が求められており、本講義では、 受精から死に至るまでの生命現象 のいくつかの側面を取りあげて科学的に探究し、生きているとはどういうことかについて考察を深めていく。また、生命の不思議さを知ること、 生命に対して畏敬 の念を抱き、看護師の前に現れる人々を 個別に尊重できる人格 を形成する。					
到達目標	1)科学的視点から生命を捉えることができる 2)医学・科学の発展の背景から生命科学に向き合う視座を身につける 3)看護師として生命への畏敬の念とともに他者を尊重できる人間力を涵養する					
関連科目	ライフスパンと人間発達、生命哲学、臨床人間学、文学にみる生老病死					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	最終レポート	20%	客観的考察ができる 1)30% 2)30% 3)40%	個別にコメントする		
	授業への参加 (コメントシートの提出による)	80%	授業毎のコメントで授業内容の理解度を確認する 1)30% 2)30% 3)40%	授業に対する提出コメントを次回の授業内でスライドにて紹介する(匿名性担保)。受講者のコメントに対する応答コメントを教員が行う。他の学生の意見を知ることによって自身の考察の拡がりを図る。		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	科学とは何か・人間の観察力の限界 (佐藤)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
2	受精から誕生までの不思議の世界 (佐藤)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
3	なぜ死ぬのか (佐藤)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
4	生命の単位である細胞 (西中)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
5	生活の中の生命科学(西中)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
6	病気とは何なのか-1(西中)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
7	病気とは何なのか-2(西中)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
8	iPS細胞とその応用(西中)			授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメントシート提出		1時間
使用テキスト	なし					
参考図書	適宜資料など配布					
教員に対する質問方法	教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生命哲学		BNNHU01L03	202320103	1前(1T)	1(15)	選択
担当教員	佐藤 泰子					
概要	人間が生きる意味や援助の根本原理、また援助者として守り行うべき道やあり方を追究することを通して、対人援助職である看護師が身につけるべき思考や態度を養うことを目的とする。「看護師とはどのような存在なのか」、そして「人として他者とどのようにかわるべきか」という看護の思想を深めるために、思想家の言葉や考えについても学修し、さらにケアを考える上で浮上してくる諸問題について日常的な例を挙げながら考えていく。					
到達目標	1)倫理的援助について歴史的背景を学び、臨床での自分の立ち位置を認識できる 2)臨床で遭遇する諸問題を論理的に把握し問題解決に向けて考えることができる 3)他者理解の限界を了解したうえで他者を理解しようとする態度を身につける 4)人間の苦しみを構造的にアセスメントし援助につなげることができる					
関連科目	ライフスパンと人間発達、生命の不思議、臨床人間学、文学にみる生老病死					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	最終レポート	20%	客観的考察ができる 1)25% 2)25% 3)25% 4)25%	個別にコメントする		
	授業への参加 (コメントシートの提出による)	80%	授業毎のコメントで授業内容の理解度を確認する 1)25% 2)25% 3)25% 4)25%	授業に対する提出コメントを次回の授業内でスライドにて紹介する(匿名性担保)。受講者のコメントに対する応答コメントを教員が行う。他の学生の意見を知ることによって自身の考察の拡がりを図る。		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	○
回	学修内容	予習・復習内容			取組時間	
1	生老病死(四苦八苦と援助の思想)	授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
2	患者・障がい者差別にみる個人モデル・医学モデル・社会モデル	教科書の該当箇所(pp.100-127)を読んで 予習 授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
3	認識論・存在論・発達心理による人間理解の哲学 (デカルト・ハイデガー・フッサール・メルロ＝ポンティ・フロイト)	教科書の該当箇所(フロイトpp.161-176)を予習 授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
4	科学哲学と生命	授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
5	ケアの倫理(ナチスの優生思想と倫理理論)	教科書の該当箇所(pp.63-97)を読んで 予習 授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
6	援助の哲学とコミュニケーション論	教科書の該当箇所(pp.130-160,177-186)を予習 授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
7	スピリチュアルペイン	教科書の該当箇所(pp.18-23)を読んで 予習 授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
8	生きる意味への問い	教科書の該当箇所(pp.1-8)を読んで 予習 授業内容を振り返り自分の意見をまとめてコメント提出			1時間	
使用テキスト	佐藤泰子 2021年『死生の臨床人間学 ―「死」からはじまる「生」―』晃洋書房					
参考図書	必要に応じて資料配布					
教員に対する質問方法	教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
臨床人間学		BNNHU02L04	202220104	1前(2T)	1(15)	選択
担当教員	吉岡 隆之					
概要	本講義では、人間学を人間の内的および外的環境(宇宙・自然環境や社会環境)に関する学際的かつ統合的の学問ととらえ、まず「人間を含めて宇宙における万物は、相互に作用し、 二貫性のある全一 体を共に作り上げる、 調和 した構造を持っている」という最先端科学を含む古今の ホーリズム(holism) の考え方について学ぶ。それらをふまえ、臨床(広義に人間の営みの現場)における諸相について、 ホリスティック・アプローチ や 行動科学 の視点をおりまぜながら学際的な観点から考察する。					
到達目標	①人間の内的および外的環境をホーリズムの観点から捉えて述べるができる。 ②臨床における諸相について、ホーリズムの観点をふまえて論じることができる。					
関連科目	ライフスパンと人間発達、生命の不思議、生命哲学、文学にみる生老病死					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対しての評価	評価に対するフィードバック方法		
	授業内課題	100%	①40% ②60%	授業時に解説		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人の人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	○
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	本講義を始めるにあたって			講義後に本講義全体の概要について整理し文章にまとめる。		2時間
2	ホーリズムとは、ホリスティックとは			講義前にテキストを熟読しホーリズムやホリスティックについて理解を深め、講義後に学んだことを文章にまとめる。		4時間
3	ホーリズムやホリスティックに関するトピック① (近代科学以前の伝統などから)			講義後にホーリズムやホリスティックについて探求し考察したことを文章にまとめる。		4時間
4	ホーリズムやホリスティックに関するトピック② (最先端の科学から)			講義後にホーリズムやホリスティックについて探求し考察したことを文章にまとめる。		4時間
5	臨床における諸相① (ホリスティック・ヘルス)			講義後にホリスティック・ヘルスについて学び、気づき、考え、感じたことを論じる。		4時間
6	臨床における諸相② (保健医療のホリスティック・アプローチ)			講義後に保健医療におけるホリスティック・アプローチについて学び、気づき、考え、感じたことを論じる。		4時間
7	臨床における諸相③ (自然治癒力)			講義後に自然治癒力について学び、気づき、考え、感じたことを論じる。		4時間
8	本講義全体のまとめ			講義後に全体を通して学び、気づき、考え、感じたことを文章にまとめる。		4時間
使用テキスト	吉岡隆之:ホリスティック・アプローチ, 日本保健医療行動科学会編『講義と演習で学ぶ保健医療行動科学第2版』, 日本保健医療行動科学会雑誌, 第36巻別冊, 94-99頁, 2022年3月発行(PDFファイルで提供)					
参考図書	参考図書、参考文献等については、適宜、資料等を提示もしくは情報の提供をいたします。					
教員に対する質問方法	メールアドレス:yoshioka-t@n-fukushi.ac.jp					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
文学にみる生老病死		BNNHU02L05	202220105	1前(2T)	1(15)	選択
担当教員	平 英美					
概要	看護とは人間の「生老病死」に向きあうのが職業である。本科目では、文学作品を通じて人の生き様や感情を深く味わうとともに、人間であれば避けることができない「生きること」「老いること」「病になること」「死ぬこと」についての考察を深める。					
到達目標	1. 指定した文学作品を通読し、それぞれ作品が「生きること」「老いること」「病になること」「死ぬこと」をどのように捉えているかについて理解できる。 2. 指定した詩歌を読み込み、作者の意図と死生観について理解できる。 3. 1, 2を通して、人間の「生老病死」について自分の考えを述べるができる。 4. 看護が生老病死どのように関わるかについて、自分の考えを述べるができる。					
関連科目	ライフスパンと人間発達、生命哲学、臨床人間学、死生学、生涯発達論					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	事前課題	40	到達目標1・2	提出された事前課題に講義中にコメント		
	レポート	40	到達目標3・4	コメントを記述し返却		
	授業参画度	20	到達目標1・2・3・4	講義中にコメント		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	
回	学修内容		予習・復習内容			取組時間
1	①講義概要および到達目標、カリキュラム・ツリー、DPとの関連、講義の進め方について ②指定図書1-1について概評し、作成した資料1についてGW		予習:①シラバスを読む②指定図書1を通読③課題1の作成 復習:課題1の完成			予習2時間 復習2時間
2	指定図書2について概評し、作成した資料1についてGW		予習①指定図書1を通読②課題2の作成 復習:課題2の完成			予習2時間 復習2時間
3	指定図書3について概評し、作成した資料1についてGW		予習①指定図書2を通読②課題3の作成 復習:課題3の完成			予習2時間 復習2時間
4	指定図書4について概評し、作成した資料1についてGW		予習①指定図書2を通読②課題4の作成 復習:課題4の完成			予習2時間 復習2時間
5	指定図書5について概評し、作成した資料1についてGW		予習①指定図書3を通読②課題5の作成 復習:課題5の完成			予習2時間 復習2時間
6	指定詩歌1について概評し、作成した資料1についてGW		予習①指定図書3を通読②課題6の作成 復習:課題6の完成			予習2時間 復習2時間
7	指定詩歌2について概評し、作成した資料1についてGW		予習①指定図書4を通読②課題7の作成 復習:課題7の完成			予習2時間 復習2時間
8	これまでの学んだ内容を踏まえて、生老病死と看護についてGW		予習①指定図書4を通読②課題8の作成(復習GWを通して「生老病死と看護」について考えをまとめる)			予習1時間 復習1時間
使用テキスト	以下の参考図書が手元にある場合は、準備するほうが望ましい					
参考図書	①大野更紗(2011)困ってるひと、ポプラ社。②夏川草介(2019)新章 神様のカルテ、小学館 ③チャールズ・M・シュルツ(1991)チャーリー・ブラウンなぜなんだい? —ともだちがおもい病気になったとき、岩崎書店。④V.E フランクル(2008)夜と霧、みすず書房。⑤戸谷洋志(2016)Jポップで考える哲学—自分を問い直すための15曲、講談社文庫。⑥金子みすゞ(2011)金子みすゞ名詩集、彩図社。⑦新海誠(2016)君の名は。、角川文庫。などを素材として取り扱う。この中のいくつかは指定図書(4冊)とする予定である。授業時に使用する指定図書(作品の一部)は、事前にBookLooperにupする。					
教員に対する質問方法	メールにて質問下さい。随時回答します メールアドレス:h_taira@kyotokango.ac.jp					

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
基礎英語	BNNHU01L11	202220201	1前	2(30)	選択
担当教員	高橋 詩子				
概要	世界中で広くコミュニケーション手段として用いられる英語を取り扱う。医療業務用の英語だけでなく、知識や話題を多方面に広げて患者の心と体を支えることのできる能力と姿勢を養う。社会生活の中で、テレビやマスコミで耳にする話題を英語で話してみよう。また、日常でネイティブが使う表現も学んでいく。				
到達目標	英語で「読む」「聞き取る」「話す」「書く」という四つの重要な要素をバランスを良く身につける。知識の幅を広げる事によって、1人の人間としての幅を広げ、国際人として自身の意見を表現できる力を養う。				
関連科目	中級英語				
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法	
	単語小テスト	15%	毎回の単語小テスト、授業参画:15%	毎回の単語小テストで個別指導	
	定期試験	85%	作文力:25% 読解力:10% 語彙力:25% 口頭表現能力:25%	定期テスト後、問題点は個別に指導	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践
回	学修内容		予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス(授業の進め方) / Unit 1 : our Aging Society (1)		特に無し		—
2	Unit 1 : いたって多趣味で元気な高齢者 (2)		前回到指定した単語と聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
3	Unit 2 : Holiday Memories (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
4	Unit 2 : 幼いときのほろ苦い思い出 (2)		前回到指定した単語と聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
5	Unit 3 : Sport (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
6	Unit 3 : 卒業後も続けるスポーツ (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
7	Unit 4 : Foreign Workers (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
8	Unit 4 : 孤立するか融合するか? (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
9	Unit 5 : Lifestyle (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
10	Unit 5 : 若者が夢見る未来は? (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
11	Unit 6 : Sizes (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
12	Unit 6 : 量と質のどちらが嬉しい? (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
13	Unit 7 : Bathrooms (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
14	Unit 7 : シャワーと風呂の文化の違い (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
15	総復習		指定した重要な文や文法の復習		予習2時間 復習2時間
使用テキスト	English Indicator 2 南雲堂				
参考図書	適宜紹介(※シラバスは若干の変更する場合がある)				
教員に対する質問方法	教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)				

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
中級英語	BNNHU03L12	202220202	1後	2(30)	選択
担当教員	高橋 詩子				
概要	世界中で広くコミュニケーション手段として用いられる英語を取り扱う。医療業務用の英語だけでなく、知識や話題を多方面に広げて患者の心と体を支えることのできる能力と姿勢を養う。社会生活の中で、テレビやマスコミで耳にする話題を英語で話してみよう。また、日常でネイティブが使う表現も学んでいく。				
到達目標	英語で「読む」「聞き取る」「話す」「書く」という四つの重要な要素をバランスを良く身につける。知識の幅を広げる事によって、1人の人間としての幅を広げ、国際人として自身の意見を表現できる力を養う。				
関連科目	基礎英語				
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法	
	単語小テスト	15%	毎回の単語小テスト、授業参画:15%	毎回の単語小テストで個別指導	
	定期試験	85%	作文力:25% 読解力:10% 語彙力:25% 口頭表現能力:25%	定期テスト後、問題点は個別に指導	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力
	科学的論理的思考力	○	全人の人間理解	◎	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践
回	学修内容		予習・復習内容		取組時間
1	Unit 8 : Weather and Global Warming (1)		特に無し		—
2	Unit 8 : Weather and Global Warming (2)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
3	Unit 8 : Weather and Global Warming (3)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
4	Unit 10 : Commuting (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
5	Unit 10 : Commuting (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
6	Unit 10 : Commuting (3)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
7	Unit 11 : Crumbling Britain (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
8	Unit 11 : Crumbling Britain (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
9	Unit 11 : Crumbling Britain (3)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
10	Unit 14 : Cars : Transport or Status (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
11	Unit 14 : Cars : Transport or Status (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
12	Unit 14 : Cars : Transport or Status (3)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
13	Unit 15 : Our Education (1)		前回到指定した単語と英文を作る練習		予習2時間 復習2時間
14	Unit 15 : Our Education (2)		前回到指定した単語と英文を聞き取り答える練習		予習2時間 復習2時間
15	総復習		指定した単語、熟語、構文の復習		予習2時間 復習2時間
使用テキスト	English Indicator 2 南雲堂				
参考図書	適宜紹介(※シラバスは若干の変更する場合があります)				
教員に対する質問方法	教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)				

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
基礎中国語		BNNHU01L14	202220204	1前	2(30)	選択
担当教員	高橋 詩子					
概要	アジアの隣国で漢字文化を持ち、母語人口が世界で最も多い中国語入門講座である。簡単字や発音、文法の基礎を学び、日常生活での基本的な文章や会話を理解する能力を養うと同時に、中国語圏で生活する人々の生活や文化を理解する態度を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の学習方法を知り身につける。 ・中国語、中国文化に興味を持つ。 ・中国語検定への道を拓く。 ・単語/リスニング/文法/作文の力をつける。 					
関連科目	中級中国語					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	単語、小テスト	15%	単語、リスニング:15%	毎回の単語テスト返却時に個別に指示		
	定期テスト	85%	単語:15% 文法:30% 作文:40%	定期テスト後、問題点は個別に指導		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人の人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス①授業の進め方 ②中国と中国語について 第1課: こんにちは 単語と本文			特に無し		—
2	第2課: ありがとう 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語で答える練習		予習2時間 復習2時間
3	第3課: お名前は? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語作文		予習2時間 復習2時間
4	第4課: 何人家族ですか? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語で答える練習		予習2時間 復習2時間
5	第5課: 今、何時ですか? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語作文		予習2時間 復習2時間
6	第6課: 中国語を習っていますか? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語で答える練習		予習2時間 復習2時間
7	第7課: おいくらですか? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語作文		予習2時間 復習2時間
8	第8課: どうしましたか? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語で答える練習		予習2時間 復習2時間
9	第9課: どこにいますか? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語作文		予習2時間 復習2時間
10	第10課: 何が好きですか? 本文、文法、リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語で答える練習		予習2時間 復習2時間
11	第11課: 運転できますか?(1) 本文、文法			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語作文		予習2時間 復習2時間
12	第11課: 運転できますか?(2) リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語で答える練習		予習2時間 復習2時間
13	第12課: 何を飲みたいですか?(1) 本文、文法			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語作文		予習2時間 復習2時間
14	第12課: 何を飲みたいですか?(2) リスニング、作文			単語(前回に指定したもの)テスト用準備と中国語で答える練習		予習2時間 復習2時間
15	総復習 テスト対策			今までの復習		予習2時間 復習2時間
使用テキスト	協同学習で学ぶ中国語 ビギニング					
参考図書	適宜紹介					
教員に対する質問方法	教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
人間と生活行動1 (コミュニケーションすること)		BNNHU02L20	202220301	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	◎鯉坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
担当教員	児玉 真衣	実務歴	無	—		
概要	人間の生活行動の「コミュニケーションすること」について、ライフスパン別に、生活行動への影響要因である 生物学的要因(人体の構造・機能)、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因 について学修する。					
到達目標	1. 生活行動「コミュニケーションすること」の生物学的要因(人体の構造・機能)、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因について説明できる。					
関連科目	ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	80%	到達目標1～80%	定期試験後のレビューで説明		
	確認テスト、事前・事後課題、授業参画	20%	到達目標1～20%	コメントを記述し返却もしくは授業時に説明		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容 ※別紙で「課題一覧」をupする。		取組時間
1	ガイダンス 「人間と生活行動1」「生活行動逸脱看護1」「生活行動看護演習1」の概要・学修内容・学習方法など			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間
2	・講義前に第2～3講の確認テスト I. コミュニケーションすること、および全ての生活行動に影響する生物学的要因			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間
3	1. 恒常性維持のための調節機構：神経性調節 1) 受容器—情報を得る—：見る、聞く、におう、触れる、味わう 2) 中枢神経—認識し判断し記憶する—：脳、脊髄 3) 末梢神経—情報を伝える—：脳神経、脊髄神経、自律神経			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間
4	II. コミュニケーションすること、および全ての生活行動に影響する環境的要因 感染とその予防			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間
5	・講義前に第5～7講の確認テスト			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間
6	III. コミュニケーションすることの生物学的要因 1. 話す：大脳言語野、発声に関わる器官(構音器官) 2. 聞く：耳の構造、音の振動の伝わり方、聴覚伝導路、大脳聴覚野			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間
7	3. 見る：眼球の構造、視覚伝導路、大脳視覚野			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間
8	・講義前に第8講の内容の確認テスト I. コミュニケーションすること、および全ての生活行動に影響する生物学的要因 2. 液性調節 1) ホルモン分泌の調節 2) 視床下部—下垂体系 IV. まとめ			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う		予習2時間 復習2時間

<p>使用 テキスト</p>	<p>①坂井建雄(最新刷):系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院. ②坂井建雄(最新刷):系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック, 医学書院. ③井出隆文(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経, 医学書院. ④任和子(最新刷):根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院. ⑤亀井智子(最新刷):根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院. ⑥川島みどり(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開, エルゼビア・ジャパン. ⑦ロイロノートスクール</p>
<p>参考図書</p>	<p>・菱沼典子(最新刷):看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会.</p>
<p>教員に対する 質問方法</p>	<p>メールアドレス:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認</p>

授業科目		教育課程ナンバー		時間割コード	開講期	必修・選択
人間と生活行動2 (生命を支えること)		BNNHU03L21		202220302	1後(3T)	必修
担当教員	◎川嶋元子	実務歴	有	看護師として病院に7年勤務 訪問看護ステーションに4年勤務		
担当教員	鯉坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
担当教員	三林 聖司	実務歴	有	准看護師・看護師として病院に22年勤務		
概要	看護実践の目的は、人間ひとりひとりが自己の健康を保持、増進、回復することによって「よく生きること」を可能にすることである。その目的達成のために看護職者は生活行動を支援するという視点から、人間の生活行動の「 食 」 ることと飲むこと」「排泄すること」 について、ライフスパン別に、生活行動への影響要因である 生物学的要因(人体の構造・機能)、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因 について学修する。					
到達目標	1.「食ることと飲むこと」「排泄すること」の概要を述べるができる。 2.「食ることと飲むこと」への影響要因(生物学的要因、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因)について、各ライフスパンの特徴をふまえて説明できる。 3.「排泄すること」への影響要因(生物学的要因、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因)について、各ライフスパンの特徴をふまえて説明できる。					
関連科目	看護学原論、ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7、生活行動看護実習1・2					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	70%	到達目標1…10% 到達目標2…30% 到達目標3…30%	定期試験後のレビューで説明		
	事前・事後課題、確認テスト、授業参画	30%	到達目標1…4% 到達目標2…13% 到達目標3…13%	授業時に説明		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	■ガイダンス ■「食ることと飲むこと」とは ■「食ることと飲むこと」とライフスパンの概要			【予習】提示された事前課題を行う。 【復習】提示された事後課題を行う。 * 別途課題を提示します。		予習2時間 復習2時間
2	■「食ることと飲むこと」とその影響要因: 青年期・成人期・老年期 ・生物学的要因、心理的・社会文化的要因、環境的・政治経済的要因					予習2時間 復習2時間
3						予習2時間 復習2時間
4						予習2時間 復習2時間
5						予習2時間 復習2時間
6						予習2時間 復習2時間
7						予習2時間 復習2時間
8						予習2時間 復習2時間
9						■「食ることと飲むこと」とその影響要因 新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期
10	・生物学的要因、心理的・社会文化的要因、環境的・政治経済的要因			予習2時間 復習2時間		
11				予習2時間 復習2時間		
12	■「食ることと飲むこと」の影響要因のまとめ			【予習】提示された事前課題を行う。 【復習】提示された事後課題を行う。		予習2時間 復習2時間

13	■「排泄すること(排便すること)」とその影響要因: 青年期・成人期・老年期 ・生物学的要因、心理的・社会文化的要因、環境的・政治経済的要因	【予習】 提示された事前課題を行う。 【復習】 提示された事後課題を行う。 ＊別途課題を提示します。	予習2時間 復習2時間
14			予習2時間 復習2時間
15			予習2時間 復習2時間
16	■「排泄すること(排尿すること)」とその影響要因: 青年期・成人期・老年期 ・生物学的要因、心理的・社会文化的要因、環境的・政治経済的要因	【予習】 提示された事前課題を行う。 【復習】 提示された事後課題を行う。 ＊別途課題を提示します。	予習2時間 復習2時間
17			予習2時間 復習2時間
18			予習2時間 復習2時間
19			予習2時間 復習2時間
20	■「排泄すること」とその影響要因: 新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期 ・生物学的要因、心理的・社会文化的要因、環境的・政治経済的要因	【予習】 提示された事前課題を行う。 【復習】 提示された事後課題を行う。 ＊別途課題を提示します。	予習2時間 復習2時間
21			予習2時間 復習2時間
22			予習2時間 復習2時間
23	■「排泄すること」の影響要因のまとめ	【予習】 提示された事前課題を行う。 【復習】 提示された事後課題を行う。 ＊別途課題を提示します。	予習2時間 復習2時間
使用テキスト	1. 坂井建雄(最新刷):系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院. 2. 坂井建雄(最新刷):系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック, 医学書院. 3. 任和子(最新刷):根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院. 4. 亀井智子(最新刷):根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院. 5. 川島みどり(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開, エルゼビア・ジャパン. 6. 茂野香おる(最新刷):系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院. 7. 任和子(最新刷):系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 8. 松田明子(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器, 医学書院. 9. 河邊博史(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器, 医学書院. 10. 臺有桂(最新版):ナーシンググラフィカ在宅療養を支えるケア 地域・在宅看護論①, メディカ出版.		
参考図書	1. 黒江ゆり子(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝, 医学書院. 2. 菱沼典子(最新刷):看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会. 3. 臺有桂(最新版):ナーシンググラフィカ在宅療養を支える技術 地域・在宅看護論②, メディカ出版.		
教員に対する質問方法	メールアドレス:川嶋元子 m_kawashima@kyotokango.ac.jp 三林 聖司:s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp 鯨坂 由紀:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
人間と生活行動3		BNNHU04L22	202220303	1後(4T)	3	必修
担当教員	◎ 中森美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
担当教員	川嶋元子	実務歴	有	看護師として病院に7年・訪問看護ステーションに4年勤務		
担当教員	南 好江	実務歴	有			
概要	看護実践の目的は、人間ひとりひとりが自己の健康を保持、増進、回復することによって「よく生きること」を可能にすることである。その目的達成のために看護職者は 生活行動を支援するという視点 から、人間の生活行動の「 動くこと・眠ること・清潔に身支度を整えること 」をとり挙げ、 ライフスパン別に、生活行動への影響要因である生物学的要因(人体の構造・機能)、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因 について学修する。					
到達目標	1. 生活行動である「動くこと」「眠ること」「清潔に身支度を整えること」の概要を述べるができる。 2. 「動くこと」への影響要因(生物学的要因、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因)について、各ライフスパンの特徴をふまえて説明できる。 3. 「眠ること」への影響要因(生物学的要因、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因)について、各ライフスパンの特徴をふまえて説明できる。 4. 「清潔に身支度を整えること」への影響要因(生物学的要因、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因)について、各ライフスパンの特徴をふまえて説明できる。					
関連科目	看護学原論、ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7、生活行動看護実習1・2、地域包括ケア実習3					
成績評価	種別	割合(%)	到達目標に対するの評価基準等		評価に対するフィードバック	
	定期試験	70%	到達目標1-12% 到達目標2-24% 到達目標3-12% 到達目標4-22%		定期試験後のレビュー	
	事前・事後学修課題 確認小テスト 授業への参画	30%	到達目標1～4:30%		各講義時間	
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		◎	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション			適切な看護実践
回	学修内容		予習・復習内容			取組時間
1	■ガイダンス 人間と生活行動3シリーズの位置づけ 学修内容 学修方法		【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む			事前/ 事後 各2時間
2	■「動くこと」とは ・「動くこと」とライフスパン ・「動くこと」と影響要因		【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む			事前/ 事後 各2時間

3	■「動くこと」と身体の仕組み :思春期・青年期・成人期 1)生物学的要因:骨格・関節・筋肉・脳神経の構造と機能、姿勢 2)	【予習】 1)提示された課題に取り組む	事前/ 事後各 2時間
4		【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	事前/ 事後各 2時間
5			事前/ 事後各 2時間
6			事前/ 事後各 2時間
7	■「動くこと」と身体の仕組みの変化:胎児期・乳児期・幼児期・学童期 *成長と発達、生活習慣とその獲得 1)生物学的要因 2)心理的要因・社会文化的要因・環境的要因・政治経済的要因	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	事前/ 事後 各2時 間
8	■「動くこと」と身体の仕組みの変化 :老年期 *加齢による変化(老化) 1)高齢者体験	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	事前/ 事後 各2時 間
9		事前/ 事後 各2時 間	
10	■「動くこと」と身体の仕組みの変化:老年期 *加齢による変化(老化) 2)生物学的要因・心理的要因・社会文化的要因・環境的要因・政治経済的要因	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	事前/ 事後 各2時 間
11		事前/ 事後 各2時 間	
12	■「動くこと」とその影響要因:まとめ	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	事前/ 事後 各2時 間
13	■「身体を清潔にし身支度を整えること」とは ・「身体を清潔にし身支度を整えること」とライフスパン ・「身体を清潔にし身支度を整えること」と影響要因	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	事前/ 事後 各2時 間
14	■「身体を清潔にし身支度を整えること」と身体の仕組み:成人期 1)生物学的要因:皮膚の構造と機能、内部環境の変化 2)心理的要因・社会文化的要因・環境的要因・政治経済的要因	【予習】 1)提示された課題に取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む	事前/ 事後 各2時 間
15		事前/ 事後 各2時 間	

16	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」と身体の仕組みの変化:乳幼児期・学童期 * 成長と発達、生活習慣とその獲得 1)生物学的要因 2)心理的要因・社会文化的要因・環境的要因・政治経済的要因</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/事後各2時間
17	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」と身体の仕組み:老年期 * 加齢による変化(老化) 1)生物学的要因 2)心理的要因・社会文化的要因・環境的要因・政治経済的要因</p>		事前/事後各2時間
18	<p>■「身体を清潔にし、身支度を整えること」とその影響要因:まとめ</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/事後各2時間
19	<p>■「眠ること」とは ・「眠ること」とライフスパンの概要 ・「眠ること」と影響要因</p> <p>■「眠ること」と身体の仕組み:成人期 1)生物学的要因:睡眠の意味、睡眠のサイクル、意識レベルと睡眠、睡眠の質、サーカディアンリズム、睡眠と自律神経、眠ることとホルモン</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/事後各2時間
20	<p>■「眠ること」と身体の仕組みの変化:乳児期、幼児期、学童期、思春期 * 成長・発達、生活習慣とその獲得 1)生物学的要因 2)心理的要因・社会文化的要因・環境的要因・政治経済的要因</p>		事前/事後各2時間
21	<p>■「眠ること」と身体の仕組みの変化:老年期 * 加齢による変化(老化) 1)生物学的要因 2)心理的要因・社会文化的要因・環境的要因・政治経済的要因</p>		事前/事後各2時間
22	<p>■「眠ること」とその影響要因:まとめ</p>		事前/事後各2時間
23	<p>「動くこと」「眠ること」「身体を清潔にし身支度を整えること」の総まとめ</p>	<p>1)人間と生活行動3、生活行動逸脱看護3、生活行動看護演習3の復習を行う</p> <p>1)講義内容をふまえて、人間と生活行動3、生活行動逸脱看護3、生活行動看護演習3の復習を行う</p>	事前/事後各2時間
使用テキスト	<p>1.坂井建夫他(2018):系統看護学講座 人体の構造と機能 I 専門基礎分野1 解剖生理学 第10版,医学書院 2.川島みどり監訳(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開,エルゼビア・ジャパン 3.任和子(2021):根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術,第3版,医学書院. 4.亀井智子(2020):根拠と事故防止からみた老年看護技術,第3版,医学書院 5.茂野香おる他(2021):系統看護学講座 専門分野 基礎看護2 基礎看護技術 I 第18版,医学書院 6.任和子他(2021):系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術 II 第18版,医学書院 7.坂井建夫他(2023)系統看護学講座 準拠 解剖生理学ワークブック2023年版,医学書院 8.ロイノートスクール</p>		
参考図書	<p>1.菱沼典子(2017):看護 形態機能学—生活行動からみるからだ(第4版),日本看護協会出版会</p>		
教員に対する質問方法	<p>メールアドレス:m_nakamori@kyotokango.ac.jp(中森)、m_kawashima@kyotokango.ac.jp(川嶋)、kyotokango.ac.jp() オフィスアワー 在校生HPを確認</p>		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
環境論		BNNEN01L01	202230101	1前(1T)	1(15)	必修
担当教員	山本 素世					
概要	環境は、人をとりまく世界であり、人は環境とかわからずには、生活できない。今日、人の暮らしと環境の持続可能性について、近年はSDGsという取り組みがある。SDGs、 持続可能な開発目標 は、環境について、学ぶ上で重要な視点である。環境論では、SDGsの視点から 人の暮らしと環境の相互関係 に注目する。講義では、環境課題の歴史的な経過、自然環境、社会環境などを多角的にとらえ、課題と取り組みについて学習する。講義中にクイズやワークシートを使ったアクティビティを行い、それを踏まえて、解説する。講義の終了時にふりかえりと課題(考察)を書いて提出する。					
到達目標	1. SDGsについて、基本的な内容を説明できる。 2. SDGsの項目のうち、興味をもったものについて、情報収集できる。 3. 講義で取り上げた、環境に関する課題について、説明できる。 4. 講義の内容について、さらに興味を深めて、情報収集してまとめられる。					
関連科目	微生物学、薬理学、社会学、現代家族論、京都の文化と暮らし、情報リテラシー、公衆衛生学、保健統計学入門					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	60	目標1 10% 目標2 20% 目標4 30%	定期試験後に全体的な解説やポイントを掲示		
	講義、ワークシート、課題への取り組み、提出	40	目標3 20% 目標4 20%	次回講義時に解説		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス、SDGsの概要と考え方を知る。			シラバスの確認、SDGsのロゴを探し、身近なところにあることを知る		予習2時間 復習2時間
2	気候変動とエネルギー問題の概要と課題、取り組み			地球温暖化による生活の変化について、情報収集し、取り組みについてまとめる		予習2時間 復習2時間
3	作る責任、使う責任、ごみ問題			ごみ問題、プラスチックフリーについて、身近な例を調べる		予習2時間 復習2時間
4	水環境、安全な水と河川開発			身近な川、池、水環境について調べ、その課題について考える		予習2時間 復習2時間
5	陸の豊かさ、生物多様性と森林、里山			身近な自然、生き物と環境の変化による影響について情報収集し、まとめる		予習2時間 復習2時間
6	地域づくり、住み続けられるための街づくり活動の事例			地域で行われている様々な活動や活動団体について情報収集する		予習2時間 復習2時間
7	開発、大規模開発と地域環境の変化			開発と地域への影響の考え方を整理して、身近な例を調べる		予習2時間 復習2時間
8	全体のまとめ、講義で学んだことで、興味をもった内容について、話し合う			定期試験に向けて、自分の興味をもった内容についてさらに情報収集し整理する		予習1時間 復習1時間
使用テキスト	無し					
参考図書	日能研教務部『SDGs 2030年までのゴール 改訂新版 -国連 世界の未来を変えるための17の目標-』2020年、みくに出版 他に講義中に適時紹介する。レジュメは、事前に電子配布する。					
教員に対する質問方法	教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
微生物学		BNNEN01L02	202230102	1前(1T)	1(15)	必修
担当教員	岸 正					
概要	微生物には人の生活環境において有益なものが多いが、人に感染症を引き起こすものも少なくない。感染症を起こすものを特に病原微生物と呼んでいるが、これら微生物の個々の特徴と性質をよく知り、感染の経路や感染防止の方法についてよく理解することが必要である。本講義では、これら微生物について周知しておくべき基礎知識を述べる。毎回講義資料を配布するので、これをもとに復習及び次回の予習を行うこと。					
到達目標	①細菌やウイルス等、各微生物の構造や特徴について比較して述べることができる。 ②種々の微生物が引き起こす感染症を挙げ、その感染経路を説明することができる。 ③消毒や滅菌について比較して述べるすることができる。 ④微生物の感染経路に対する感染防止の方法を述べることができる。					
関連科目	環境論、薬理学、社会学、現代家族論、京都の文化と暮らし、情報リテラシー、公衆衛生学、保健統計学入門					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	100%	①②の微生物の基本的知識約2/3、③④の感染防止の知識約1/3	毎回、講義中に学習のポイントを提示するので、これらの学習が不足しないようにしていただきたい。十分に学習しているか、知識が身についているかを定期試験で判断する。試験中に解答できなかった問題については知識が不十分であるので、再度学習しなければならない。特に解答に対してコメントが必要な場合は採点后に掲示する。なお、試験問題の配点は問題用紙に記載する。		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容		予習・復習内容		取組時間	
1	はじめに、微生物の大きさ、パスツールの実験の意義、日常生活における微生物、病原微生物とは、コッホの条件、ヒトと微生物、微生物の命名、形状による分類、発育温度による分類		教科書のはしがきと第1章微生物と微生物学をよく読んでおくこと。		予習2時間 復習2時間	
2	酸素の必要性による分類(好気性菌と嫌気性菌)、染色(グラム染色と抗酸染色)、細菌の構造と特徴、細菌の栄養と代謝		予習内容の詳細は、前回配布講義資料の次回講義内容欄を参照のこと。		予習2時間 復習2時間	
3	培地、分裂と増殖、感染、感染経路、バイオハザードとバイオセーフティ、スタンダードプリコーション		"		予習2時間 復習2時間	
4	滅菌と消毒、物理的な滅菌・消毒、化学的な滅菌・消毒、石鹼と消毒薬の違い		"		予習2時間 復習2時間	
5	化学療法薬、抗生物質の種類、薬剤耐性について		"		予習2時間 復習2時間	
6	ワクチンと血清療法、新興・再興感染症、感染症の分類、食中毒について		"		予習2時間 復習2時間	
7	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス、プリオン、真菌、原虫の特徴と、その感染症		"		予習2時間 復習2時間	
8	性感染症、肝炎ウイルス、一類感染症、まとめ		"		予習1時間 復習1時間	
使用テキスト	系統看護学講座 微生物学 医学書院					
参考図書	授業中に適宜、提示する。					
教員に対する質問方法	教務部宛に連絡のこと。(教務部アドレス:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
薬理学		BNNEN02L03	202230103	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	岸 正					
概要	薬とは何か。体内に薬物が入ったときにどのような作用が現れるのか、薬物の作用と作用機序及び副作用について解説したい。また、薬物相互作用についても述べる。加えて与薬方法と注意項目、観察ポイント、副作用の対策、管理上の留意点など、看護実践に役立つ基本的知識を教示したい。毎回講義資料を配布するので、これをもとに復習及び次回の予習を行うこと。なお、この薬理学では各論として中枢神経系作用薬の一部と自律神経系作用薬、抗感染症薬等についてとりあげる。他の薬物については、それに該当する科目の中で逐次講義される予定である。					
到達目標	①薬効に影響を及ぼす要因や、関連用語について説明することができる。 ②代表的な薬の作用と作用機序、及び注意すべき副作用を述べるすることができる。 ③与薬の際の注意事項を述べるすることができる。 ④剤形の違いについて利点と欠点を比較することができる。					
関連科目	環境論、薬理学、社会学、現代家族論、京都の文化と暮らし、情報リテラシー、公衆衛生学、保健統計学入門					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	100%	①、④について約1/3、 ②、③について約2/3	毎回、講義中に学習のポイントを提示するので、これらの学習が不足しないようにしていただきたい。十分に学習しているか、知識が身についているかを定期試験で判断する。試験中に解答できなかった問題については知識が不十分であるので、再度学習しなければならない。特に解答に対してコメントが必要な場合は採点后に掲示する。なお、試験問題の配点は問題用紙に記載する。		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容		予習・復習内容		取組時間	
1	はじめに、薬理学とは、薬物とは何か、クスリはリスク(主作用と副作用)、薬物療法における看護師の役割、用法用量、種々の作用		教科書のはしがきと第1章薬理学の学ぶにあたってをよく読んでおくこと。		予習2時間 復習2時間	
2	薬物の体内動態、薬物相互作用、薬の正しいのみ方、薬物代謝酵素、薬効の個人差に影響を及ぼす要因、処方箋や与薬に関する注意点		予習内容の詳細は、前回配布講義資料の次回講義内容欄を参照のこと。		予習2時間 復習2時間	
3	プラセボ効果、二重盲検法、薬の投与経路、DDS、TDM、薬品の管理、薬の有害作用(副作用と薬害、耐性と薬物依存)		"		予習2時間 復習2時間	
4	筋弛緩薬、局所麻酔薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬		"		予習2時間 復習2時間	
5	催眠薬、抗不安薬、パーキンソン症候群治療薬、薬物中毒とその解毒薬		"		予習2時間 復習2時間	
6	化学療法とは、抗生物質と合成抗菌薬の違い、抗菌薬の作用機序、抗菌薬の種類、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬		"		予習2時間 復習2時間	
7	自律神経系に作用する薬物、アドレナリン作動薬、コリン作動薬		"		予習2時間 復習2時間	
8	抗アドレナリン作動薬、抗コリン作動薬、免疫抑制薬、まとめ		"		予習1時間 復習1時間	
使用テキスト	系統看護学講座 薬理学 医学書院					
参考図書	授業中に適宜、提示する。					
教員に対する質問方法	教務部宛に連絡のこと。(教務部アドレス:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
社会学		BNNEN01L04	202230104	1前(1T)	1(15)	必修
担当教員	進藤 雄三					
概要	<p>私たち現代人は個人として自立しているとともに、家族、地域、企業、国家などさまざまな集団・組織や制度で構成された複雑な社会システムのなかで生活している。社会学とは多様な水準の社会に生きる個人のあり方、関係のあり方、システムの制約性に関する学問である。この講義では、医療システムを素材にしつつ、社会学的視点と分析の基本を学習するとともに、医療と社会のありうべき姿への構想力を涵養する。</p>					
到達目標	<p>1) 現代社会の仕組みについて説明できる。 2) 医療と社会の関係について述べるができる。 3) 医療を取り巻く社会環境、医療自身の社会性について述べるができる。 4) これからの社会と医療の在り方について自分の考えを述べるができる。</p>					
関連科目	母性看護学、小児看護学、高齢者支援論					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	60%	1)2)各15% 3)60% 4)10%	定期試験後のレビューで説明		
	提出物	40%	1)2)各15% 3)60% 4)10%	提出後の次講義で総評を解説		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	オリエンテーション…:社会学という学問			【予習】社会学とは何かについて調べる 【復習】第1講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
2	病者の視点: 病者役割・病気行動・病体験			【予習】病者役割・病気行動・病体験について調べる 【復習】第2講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
3	患者-医療者関係: コミュニケーション			【予習】患者-医療者関係について調べる 【復習】第3講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
4	保健医療の専門職: 看護職のケース			【予習】専門職について調べる 【復習】第4講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
5	保健医療制度: 福祉国家と保健医療制度			【予習】福祉国家について調べる 【復習】第5講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
6	保健医療と地域社会: 社会関係資本			【予習】コミュニティについて調べる 【復習】第6講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
7	保健医療と社会格差: 健康格差			【予習】健康格差について調べる 【復習】第7講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
8	ケアの倫理: ケアの倫理と医療倫理			【予習】ケアの倫理について調べる 【復習】第8講の復習、および授業全体の振り返り		予習0.5時間 復習1.5時間
使用テキスト	なし					
参考図書	授業時に紹介する。					
教員に対する質問方法	メール オフィスアワー 在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
現代家族論		BNNEN02L05	202230105	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	進藤 雄三					
概要	家族 は、人類社会に普遍的な 社会集団 であると考えられているが、一方で家族ほど多様であり、歴史的変容の著しい集団も少ない。日本の家族も現在の姿になるまでに大きな変遷をとげている。授業では、日本の家族の歴史といまの家族が抱える問題を、 ジェンダー 概念を基軸に考えていく。					
到達目標	1) 日本の家族の歴史について説明できる。 2) 現代家族が抱えるさまざまな問題について説明できる。 3) 医療・看護をジェンダー論や家族論の視点から考えることができる。					
関連科目	母性看護学、小児看護学、高齢者支援論					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対しての評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート	60%	1)~3) 各25%	定期試験後のレビューで説明		
	発表と討議	40%	1)~3) 各25%	提出後の次講義で総評を解説		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	オリエンテーション: イエから近代家族、そして現代家族へ			【予習】イエ制度について調べる 【復習】第1講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
2	家族の定義: 核家族概念と家族の多様化			【予習】核家族概念について調べる 【復習】第2講について復習		予習0.5時間 復習0.5時間
3	家族の変化: 近代家族から現代家族へ			【予習】現代家族への変化を調べる 【復習】第3講について復習		予習1時間 復習1時間
4	現代への変化I: 婚姻と性別分業の変化①問題提示とグループワーク			【予習】婚姻関係について調べる 【復習】グループで調べたことをまとめる		予習1時間 復習2時間
5	現代への変化I: 婚姻と性別分業の変化②発表と討議			【予習】提出ファイルの作成準備 【復習】発表と討議内容について復習		予習2時間 復習0.5時間
6	現代への変化II: 子供・老親の変化①問題提示とグループワーク			【予習】出産・老親扶養について調べる 【復習】グループで調べたことをまとめる		予習2時間 復習2時間
7	現代への変化II: 子供・老親の変化②発表と討議			【予習】提出ファイルの作成準備 【復習】発表と討議内容について復習		予習2時間 復習0.5時間
8	現代家族の現在: どのような働きかけが可能か			【予習・復習】授業の振り返りをしておく		予習1時間 復習1時間
使用テキスト	なし					
参考図書	授業時に紹介する。					
教員に対する質問方法	メール オフィスアワー 在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
京都の文化とくらし		BNNEN01L06	202230106	1前(1T)	1(15)	選択
担当教員	山内 熱人					
概要	京都は長らく、 日本文化 においてきわめて重要な地であり続け、様々な 習俗や伝統 が受け継がれている。担当教員は文化人類学を専攻しており、長らく地域の営みや文化について研究してきた。本授業は基本的に講義形式で進むが、京都、及び日本文化やその習俗、伝統を学ぶのみならず、それらが 社会的に構築された存在 であり、 常に移り変わっていくもの でもあることを伝えたい。また、 自ら調べ、学習すること をレポート作成を通じて学ぶ。					
到達目標	1) 京都の歴史、文化、伝統について学ぶ 2) それらが人々の生活の中で受け継がれてきたものであるとともに、移り変わっていくものでもあるということを理解する 3) 自ら調べて学習することの楽しさを知る					
関連科目	保健統計学入門、情報リテラシー、現代家族論、社会学、環境論					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	期末レポート	70%	1-30%、2)-30%、3)-10%	コメントと点数のついたものを返却		
	授業参画	30%	1)-15%、2)-15%	授業参画の程度について公開		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	導入: 本授業についてのガイダンス、京都とは何か、京都の歴史			京都イメージと範囲について考えておく		予復習 2時間
2	舞妓について: 舞妓と芸妓、花街について			舞妓の特徴、舞妓の扱われた娯楽作品を調べておく		予復習 2時間
3	京ことばについて: 方言とは何か、共通語と方言、地域差と社会階層差、京都語のイメージ、代表的な言葉、語変化			京都の言葉について調べておく		予復習 2時間
4	祭りと地蔵盆: 宗教と祭り、寺社仏閣と祭り、祭りの特徴、地蔵盆の内容、地蔵とは			地蔵盆について調べておく		予復習 2時間
5	祇園祭①: 起源、祇園神社について、各行事、山鉾町と山鉾			祇園祭について調べておく		予復習 2時間
6	祇園祭②: 宵山、神輿渡御、人類学的アプローチ			祇園祭について周りの人に聞く		予復習 2時間
7	五山送り火: 送り火とは、左大文字送り火、関わる人々、信仰としての五山送り火			五山送り火を調べておく		予復習 2時間
8	最後に: 観光としての京都、京都の町並みの保存			本授業のおさらいをしておく		予復習 1時間
使用テキスト	授業内で提示する(学生が用意する必要はない)					
参考図書	授業内で内容ごとに提示する					
教員に対する質問方法	授業内容に対する質問にはアンケートにおいて受け、毎回、授業冒頭で答えるようにする その他の質問は教務部アドレス(教務部: kyomubu@kyotokango.ac.jp)を通じて答える					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
情報リテラシー		BNNEN01L07	202230107	1前(1T)	1(15)	必修
担当教員	山田 哲也	実務歴	有	情報教育・メディア教育に約20年間携わる。		
概要	情報通信技術(ICT)は、著しい進歩を遂げ、現代社会や私たちの生活に深く浸透している。大学での学修・研究、医療現場、日常生活、それぞれの場面はICTに支えられている。情報伝達や情報の適切な活用について理解し、ICTを使いこなしていくことが求められている。この授業では、情報を活用する能力とともに、情報活用行動を行う際の 情報の科学的知識やネットワーク・リテラシー・情報を評価する能力 を養う。ipad上で、ディスカッションを行ったり、クリッカーを用いた双方向型授業形態を取り入れる。					
到達目標	現代社会における、情報伝達と情報通信技術(ICT)が果たす役割を理解するとともに、大学生活や日常生活、今後の職業において、情報通信技術を適切に活用できる力を養うために、次の項目を目標とする。 1) 現代社会における情報伝達を理解し、ICTが活用されている場面を説明できるとともに、活用できる。 2) プライバシーへの配慮、個人情報保護、著作権の尊重に必要なことがらを説明できる。 3) ICTを利用する上でのトラブルとその回避方法を、それぞれ説明できる。 4) 調査、分析した内容を、コンピューターやiPadでまとめて表現できる。					
関連科目	クリティカル・シンキング					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート	60	到達目標1)2)3)4)各15%	webサイト上で総合的フィードバック		
	講義内小テスト	20	到達目標1)2)各10%	webサイト上のポイント掲示		
	主体的に学ぶ態度	30	到達目標4)30%	webサイト上のポイント掲示		
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容	予習・復習内容			取組時間	
1	オリエンテーション 講義全体の概要、現代社会と通信技術	高等学校「情報」教科書の復習			予習2時間 復習2時間	
2	情報伝達の歴史としくみ	事前調べ学習、講義内容を確認する復習			予習2時間 復習2時間	
3	インターネット・セキュリティ	事前調べ学習、講義内容を確認する復習			予習2時間 復習2時間	
4	情報アクセシビリティと社会	事前調べ学習、講義内容を確認する復習			予習2時間 復習2時間	
5	メディアリテラシーの考え方	事前調べ学習、講義内容を確認する復習			予習2時間 復習2時間	
6	様々な情報メディアと特性	事前調べ学習、講義内容を確認する復習			予習2時間 復習2時間	
7	コンピューターの基本構成	事前調べ学習、講義内容を確認する復習			予習2時間 復習2時間	
8	ネットワークにおける資源共有	事前調べ学習、講義内容を確認する復習			予習1時間 復習1時間	
使用テキスト	使用しない、パワーポイントやPDFで提示					
参考図書	山川修,徳野淳子,田中武之,菊沢正裕,情報リテラシー(第3版)—メディアを手中におさめる基礎能力,森北出版,2013					
教員に対する質問方法	「山田哲也研究室」webサイトのCONTACTフォーム https://tetyamz.jimdofree.com/ (教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
公衆衛生学		BNNEN02L08	202230108	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	◎滝澤寛子	実務歴	有	看護師として病院に1年、市町村保健師として2年勤務		
	村上久恵		有	看護師として病院に5年、市町村保健師として22年勤務		
概要	人間を取りまく外部環境である 環境や地域、また人々の行動や生活 に注目し、マクロの視点で健康をとらえる公衆衛生学について学修する。公衆衛生の基盤となる 理念や考え方 、公衆衛生活動に関連する 方策のほか、人間の健康と環境、集団・地域を捉えるための指標や疫学 についても学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念とその社会的意義について説明できる 2. 人々を取りまく環境が健康にどのような影響を及ぼすのか説明できる 3. ライフステージに応じた健康課題とその対策について説明できる 4. 人々の健康を守るための公衆衛生活動における看護職の役割について述べる事ができる 					
関連科目	保健統計学入門・保健統計学・公衆衛生看護学					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価		評価に対するフィードバック方法	
	定期試験	80%	到達目標1 -20% 到達目標2 -20% 到達目標3 -20% 到達目標4 -20%		定期試験後のレビューで説明	
	授業内課題 授業参画	20%	到達目標1 -5% 到達目標2 -5% 到達目標3 -5% 到達目標4 -5%		課題については授業内で解説	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解		○	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション			適切な看護実践 ○
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	ガイダンス/公衆衛生の概念と歴史 ・公衆衛生とはなにか ・公衆衛生の歴史			【予習】シラバスとテキストp2-43を読み、p2およびp16にある「本章で学ぶこと」を参考に本科目の学修内容を理解する 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p44のゼミナールに取り組む		予習2時間 復習2時間
2	公衆衛生の活動対象としくみ ・生活と健康に関係する社会集団 ・看護職の公的責任と活動対象			【予習】p46-90を読み、p46およびp64にある「本章で学ぶこと」を参考にまとめる 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p62と89-90のゼミナールに取り組む		予習2時間 復習2時間
3	集団の健康を捉える手法/環境と健康 ・疫学と保健統計 ・地球規模の環境/身の回りの環境と健康 ・日本の環境行政			【予習】p92-151を読み、p92とp118にある「本章で学ぶこと」を参考にまとめる 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p115-116、p152のゼミナールに取り組む		予習2時間 復習2時間
4	環境と健康/感染症と予防対策 ・感染症の基礎知識と感染症予防対策			【予習】p154-179を読み、とp154にある「本章で学ぶこと」を参考にまとめる 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p179-180のゼミナールに取り組む		予習2時間 復習2時間
5	地域における公衆衛生の実践 ・公衆衛生看護とは ・ライフステージ別の保健活動 ・健康レベル別の保健活動			【予習】p196-266を読み、p196にある「本章で学ぶこと」を参考にまとめる 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p310-311(高齢者保健)のゼミナールに取り組む		予習2時間 復習2時間
6	地域における公衆衛生の実践 ・健康レベル別の保健活動			【予習】p266-309を読み、p196にある「本章で学ぶこと」を参考にまとめる 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p311(精神保健)-312のゼミナールに取り組む		予習2時間 復習2時間

7	学校と健康/職場と健康 ・学校と職場における健康 ・学校/産業保健活動の展開	【予習】p314-359を読み、p314と338にある「本章で学ぶこと」を参考にまとめる 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p336、359-360のゼミナールに取り組む	予習2時間 復習2時間
8	国際保健と健康危機管理 ・経済格差と健康格差 ・健康危機管理とは ・災害保健活動	【予習】p182-194、p362-379を読み、p182、p362にある「本章で学ぶこと」を参考にまとめる 【復習】講義で学んだ内容を復習し、p194、379のゼミナールに取り組む	予習1時間 復習1時間
使用テキスト	神馬征峰他(2022): 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2、医学書院		
参考図書	適宜紹介する		
教員に対する質問方法	常勤: メールアドレス: 滝澤寛子 h_takizawa@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認 非常勤: 連絡可能なメールアドレスor教務部アドレス(教務部: kyomubu@kyotokango.ac.jp)		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
保健統計学入門		BNNEN12L10	202230110	1前(1T)	1(15)	必修
担当教員	◎河田志帆	実務歴	有	保健師として行政に3年、産業に5年勤務		
担当教員	菅田勝也	実務歴	有	看護師として病院に勤務		
概要	統計学は人間を取りまく 集団の特徴を数値で把握 し、活用するための学問であり、その特徴が健康に関連するものを保健統計学という。本講義では、人々の日常生活に関連する身近な 保健統計データ にふれ、保健統計学の基礎知識を学修しながら、人間の 外部環境 である地域をマクロの視点でとらえる力を修得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの種類とデータの特徴を表す値、データのまとめ方を理解し、実際のデータに活用できる。 2. 正規分布、二項分布の特徴を説明できる。 3. 推定と検定の考え方を理解し、データの種類にあわせた検定方法が説明できる。 4. 人口統計の種類と日本の人口の動向や各指標値について説明できる。 5. 代表的な保健統計調査の方法と内容を説明できる。 6. 各種保健統計調査の結果から、現在の日本人の生活や健康状態、保健医療サービスの実態を知り、人々の健康の維持増進のためにどのように役立てることができるか述べることができる。 					
関連科目	保健統計学・公衆衛生学					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価		評価に対するフィードバック方法	
	授業内テスト	30%	到達目標1－5% 到達目標2－5% 到達目標3－10% 到達目標4－10%		授業時に解説する	
	定期試験	70%	到達目標1－10% 到達目標2－10% 到達目標3－15% 到達目標4－15% 到達目標5－10% 到達目標6－10%		定期試験後のレビューで説明	
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解		◎	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション			適切な看護実践
回		学修内容			予習・復習内容	取組時間
1	4月8日 Ⅱ時限	ガイダンス ・本科目の位置づけと授業予定 ・統計学とは何か、看護とどう関係するのか			【予習】シラバスおよびテキストに目を通し、本科目の学修内容を理解する。 【復習】統計学が集団の特徴を数値で把握し、活用する学問である具体例を探し理解を深める。	予習2時間 復習2時間
2	4月15日 Ⅱ時限	データの種類とまとめ方 ・データの種類と代表値 ・データのまとめ方			【予習】テキストp.12～41を読んでまとめる。 高校数学Ⅰのテキスト等で不足する知識を得る。 【復習】授業内容で得た内容を追加する。 テキストp.23～29・38～41の練習問題を解き、理解できるようになる。	予習2時間 復習2時間
3	4月22日 Ⅱ時限	データの関係性と検定 ・2種類のデータの関係性 ・推定と検定 ・小テスト①			【予習】テキストp.53～62・69～80を読んでまとめる。 高校数学Bのテキスト等で不足する知識を得る。 【復習】授業内容で得た内容を追加する。 テキストp.60～62・77～80の練習問題を解き、理解できるようになる。	予習2時間 復習2時間
4	4月29日 Ⅱ時限	検定の種類 ・正規分布と二項分布 ・検定の種類(t検定、ノンパラメトリック検定、 χ^2 検定) ・小テスト②			【予習】テキストp.42～52・81～110を読んでまとめる。 高校数学A・Bのテキスト等で不足する知識を得る。 【復習】授業内容で得た内容を追加する。 テキストp.49～52・92～93・101～102・109～110の練習問題を解き理解できるようになる。	予習2時間 復習2時間

5	5月13日 Ⅱ時限	人口静態統計 ・人口静態調査 ・日本の人口構成や世帯構成の実態 ・小テスト③	【予習】テキストp.111～125を読んでまとめる。 【復習】授業内容で得た内容を追加する。テキストp.123～125の練習問題を解き理解できるようになる。	予習2時間 復習2時間
6	5月20日 Ⅱ時限	人口動態統計 ・人口動態調査 ・日本の出生・死亡・死産・婚姻・離婚の実態 ・小テスト④	【予習】テキストp.126～149を読んでまとめる。 【復習】授業内容で得た内容を追加する。テキストp.138～141・148～149の練習問題を解き理解できるようになる。	予習2時間 復習2時間
7	5月27日 Ⅱ時限	保健統計調査—基幹統計— ・保健統計の種類と内容 ・小テスト⑤	【予習】テキストp.150～179を読んでまとめる。 【復習】授業内容で得た内容を追加する。テキストp.160～162・171～173・178～179の練習問題を解き理解できるようになる。	予習2時間 復習2時間
8	6月3日 Ⅱ時限	保健統計調査 ・日本人の生活・健康・保健医療サービスの実態 (グループワーク)	【予習】人口統計・保健統計調査から現在の日本人の生活や健康状態、保健医療サービスの実態をまとめる。 人々の健康の維持増進のために何が必要か考える。 【復習】授業で得た情報を加え、現在の日本人の生活や健康状態、保健医療サービスの実態をまとめる。	予習1時間 復習1時間
使用 テキスト	白戸亮吉ほか:ていねいな保健統計学 第2版、羊土社、2022.			
参考図書	適宜紹介する			
教員に対する質問方法	常勤:メールアドレス:河田志帆 s_kawata@kyotokango.ac.jp、菅田勝也 k_kanda@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認			

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生化学		BNNEN02L14	202230201	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	大見 奈津江					
概要	ヒトを構成する生体分子について、その種類、構造と機能、代謝調節機構を学修する。代謝調節機構の異常によって引き起こされる病気や、核酸の構造と機能、遺伝情報の異常によって引き起こされる病気についても学ぶ。栄養素の特徴と役割、消化・排泄・代謝機能との関係、ライフステージに応じた栄養所要量、病態栄養などについても併せて学修する。『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学』に沿って講義を行う。また、参考図書『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学』から関連の深い内容について、適宜抜粋して紹介する。					
到達目標	1)ヒトを構成する生体分子の種類について述べることができる。 2)生体分子の構造と機能について述べるができる。 3)生体分子の代謝調節機構について述べるができる。 4)生体分子の代謝調節機構の異常によって引き起こされる病気について述べるができる。 5)核酸の構造と機能について述べるができる。 6)遺伝情報の異常によって引き起こされる病気について述べるができる。					
関連科目						
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対しての評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	90%	60%以上の正答	定期試験後に解説を掲示する		
	授業への参加	10%	「ゼミナール復習と課題」の理解	講義中に解説する		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	生化学を学ぶための基礎知識／代謝の基礎と酵素・補酵素			予習:教科書1章、2章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
2	糖質の構造と機能／糖質代謝			予習:教科書3章、4章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
3	脂質の構造と機能／脂質代謝			予習:教科書5章、6章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
4	タンパク質の構造と機能／タンパク質代謝			予習:教科書7章、8章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
5	ポルフィリン代謝と遺物代謝／栄養素の種類とはたらき／食物の消化と栄養素の吸収・代謝／エネルギー代謝			予習:教科書9章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
6	遺伝子と核酸／遺伝子の複製・修復・組換え			予習:教科書10章、11章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
7	転写／翻訳と翻訳後修飾			予習:教科書12章、13章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
8	シグナル伝達／がん			予習:教科書14章、15章の熟読・復習:章末ゼミナール復習と課題、及び講義中に紹介した関連問題		予習 1時間 復習 1時間
使用テキスト	島山鎮次『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学』第14版第5刷 医学書院					
参考図書	中村丁次『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学』第13版 医学書院					
教員に対する質問方法	教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
病理学		BNNEN02L15	202230202	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	伊東 恭子、穴戸 由紀子、丹藤 創、◎藤本 崇宏					
概要	病理学は、ギリシャ語のpathos(苦難)とlogos(学問)が語源となっている。すなわち、 疾病/疾患の本態:病気になる(発症)までの成り立ち、病気のしくみ(病態)、病気の成り行き(予後) を明らかにする学問で、患者の疾患を正しく認識した上で医療に携わる看護学の基盤をなすものである。具体的には、病理学総論として、 老化と死、先天異常と遺伝子異常、細胞・組織の障害と修復、代謝障害、循環障害、炎症と免疫、移植と再生医療、感染症、腫瘍 に関して、病態を理解するための基盤となるメカニズムの大筋を理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 分子・細胞・組織のレベルから人体の正常な構造・機能を述べるができる。 どのような経過を伴って異常や障害、疾病へと破綻をおこすかについて、その発生機序、病態生理を説明できる。 病因に基づく疾患の分類、各々の病態における組織学的変化、ヒトの主要な疾患のコンセプトを説明できる。 形態学に加えて、分子生物学的解析を駆使した病態の検討に関して論じることができる。 知識の有機的な融合により、患者の身体に生じている様々な変化を病理学的見地に立って説明できる。 病理学的知識を実践に役立てることができる。 					
関連科目	生化学、クリティカルシンキング、人間関係の心理学					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対しての評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	100	定期試験60%以上で合格とする。	教務部より可否の開示		
	授業参画	0	授業参画は80%以上で受験可能とする。			
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	病理学でまなぶこと、老化と死			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習1時間 復習1時間
2	先天異常と遺伝子異常			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習2時間 復習2時間
3	細胞・組織の障害と修復			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習2時間 復習2時間
4	代謝障害			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習2時間 復習2時間
5	循環障害			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習2時間 復習2時間
6	腫瘍			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習2時間 復習2時間
7	炎症と免疫、移植と再生医療			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習2時間 復習2時間
8	感染症			【予習】シラバス、テキスト、配布資料を読み事前課題を抽出する。 【復習】授業中に新たに得た知識を総括し、事前課題に関して考察する。		予習2時間 復習2時間
使用テキスト	病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1](第6版)大橋健一(著者代表) 医学書院					
参考図書	随時紹介する					
教員に対する質問方法	非常勤:教務部アドレス(教務部:kyoumubu@kyotokango.ac.jp)					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
クリティカルシンキング		BNNEN01L16	202230203	1前(1T)	1(15)	選択
担当教員	奥田 のり美	実務歴	有	看護師として病院に21年		
概要	問題解決の基礎を正しく理解し実践するスキルを身に付ければ、人は大きく変わることができる。クリティカルシンキングは学生をはじめ、ほとんどに人に必要なスキルである。「健全な思考」をするために必須となるのが「正しく疑う」「正しく考える」「正しく発想する」三位一体の思考法である。事例を通して思考し、さらに臨床現場での活用方法を考えていく。					
到達目標	1. 社会的クリティカルを考え方が説明できる。 2. 「正しく疑う」の思考法が事例を通して説明できる。 3. 「正しく考える」の思考法が事例を通して説明できる。 4. 「正しく発想する」の思考法が事例を通して説明できる。 5. 看護実践への活用が説明できる。					
関連科目	生化学、病理学、クリティカルシンキング、人間関係の心理学					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート	100%	1～5それぞれ20%	書面でフィードバック		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	◎	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	○
回	学修内容	予習・復習内容			取組時間	
1	ガイダンス・思考法の必要性	【予習】シラバスを読みどのようなことを学ぶのか考える。 【復習】思考法はなぜ必要なのかまとめる			予習2時間 復習2時間	
2	クリティカルシンキングとは何か 社会的クリティカルシンキングとは何か	【予習】講義資料を読んでおく。 【復習】クリティカルシンキングの本質、心構えをまとめる。			予習2時間 復習2時間	
3	ロジカルシンキングとは何か(演繹法・帰納法)	【予習】講義資料を読んでおく。 【復習】演繹法、帰納法についてまとめる			予習2時間 復習2時間	
4	ロジカルシンキングとは何か(事例をとって考える)	【予習】講義資料を読んでおく。 【復習】事例を通して自分の考えをまとめる			予習2時間 復習2時間	
5	ラテラルシンキングとは何か	【予習】講義資料を読んでおく。 【復習】事例を通して質問に対する考えをまとめる。			予習2時間 復習2時間	
6	ラテラルシンキングとは何か(事例をとって考える)	【予習】講義資料を読んでおく。 【復習】事例を通して自分の考えをまとめる			予習2時間 復習2時間	
7	クリティカルに考えるとは クリティカルに何をどう疑うのか	【予習】講義資料を読んでおく。 【復習】事例を通して自分の考えをまとめる			予習2時間 復習2時間	
8	看護におけるクリティカルシンキングの実際	【予習】講義資料を読んでおく 【復習】自分の思考の傾向をまとめる			予習1時間 復習1時間	
使用テキスト	吉岡隆之：ナラティブと行動変容のからくりを脳科学から探る－科学の限界を見すえて－，日本保健医療行動科学会雑誌，第33巻第2号，1-8頁，2018年(事前にPDFファイルで提供)					
参考図書	① Bob Price・Anne Harrington(2013)看護学生のためのクリティカルシンキングと書き方(神郡 博 訳)世論時報社 ② 楠見孝・津波古澄子(2017)看護におけるクリティカルシンキング教育 医学書院 ③ 野地有子・牧本清子(2001)楽しく学ぶクリティカルシンキング 廣川書店 ④ 小川進・平井孝志(2009)3分でわかるクリティカルシンキングの基本 日本実業社出版					
教員に対する質問方法	メールアドレス:n_okuda@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
人間関係の心理学		BNNEN03L17	202230204	1後(3T)	1(15)	選択
担当教員	小島 隆次					
概要	患者との関係や医療スタッフ間関係など、医療現場特有の人間関係に対して将来的によりよく適応できるようにするために、まずは幅広く日常的な人間関係における人の認知・行動特性に関する基礎的知見の習得が重要となります。本授業「人間関係の心理学」では、人間関係に関わる認知心理学や社会心理学の研究結果の紹介を中心に、人間関係における人の認知・行動特性の基本事項を幅広く学習します。また、こうした基礎的知見をどのように応用すれば、医療現場での対人理解や対人コミュニケーションにおいて適応的に対処できるようになるのかについても適宜検討します。					
到達目標	①人間関係に関わる、人の認知・行動特性に関する基礎的知見を習得する。 ②①で習得した知見に基づいて、論理的・批判的に、人間関係を含む認知・行動科学的問題に対処できる。 ③①で習得した知見を、日常生活での人間関係において適切に援用できる。					
関連科目	生化学、病理学、クリティカルシンキング					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	80%	①50% ②30%	定期試験後に講評資料を配布。		
	授業内課題	5%	③5%	授業中に課題実施後に解説。		
	課外課題	15%	②5% ③10%	課外課題実施後の授業時に解説。		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	◎	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	◎	適切な看護実践	
回	学修内容		予習・復習内容		取組時間	
1	授業ガイダンス(授業の進め方、学習の仕方、単位認定・評価方法等の説明)と心理学全般についての概説		初回授業は予習不要です。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習2時間 復習2時間	
2	感覚・知覚・注意(人が外界の情報を取り込む際の特長や傾向性について概説)		事前配布される授業レジュメで予習をしましょう。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習2時間 復習2時間	
3	ヒューリスティクス・認知バイアス(人の思考特性をヒューリスティクスと認知バイアスを中心に概説)		事前配布される授業レジュメで予習をしましょう。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習2時間 復習2時間	
4	パーソナリティ(パーソナリティに関する学術的基本とパーソナリティの測定方法などを概説)		事前配布される授業レジュメで予習をしましょう。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習2時間 復習2時間	
5	対人認知(第一印象を中心に印象形成について概説)		事前配布される授業レジュメで予習をしましょう。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習2時間 復習2時間	
6	言語・非言語コミュニケーション(自然言語による言語情報と表情やジェスチャーなどの非言語情報を用いたコミュニケーションについて概説)		事前配布される授業レジュメで予習をしましょう。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習2時間 復習2時間	
7	交渉・説得(交渉・説得におけるコミュニケーション特性や方略について概説)		事前配布される授業レジュメで予習をしましょう。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習2時間 復習2時間	
8	まとめ(第2回～第7回までのまとめ)		事前配布される授業レジュメで予習をしましょう。授業後に、授業資料、別途提供される副教材(補足資料)、過去問等で復習をしましょう。		予習1時間 復習1時間	
使用テキスト	授業に必要な教材・資料は全てこちらで用意します。授業時に使用するレジュメは各回授業に先行して配布します。各回授業後には復習のための教材(補足資料)を配布します。また、過去問も解答とともに公開します。これら資料を各自で活用して定期試験に備えて下さい。					

参考図書	『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』(有斐閣) 『社会心理学 補訂版 (New Liberal Arts Selection)』(有斐閣)
教員に対する質問方法	以下のメールアドレスにて授業に関する個別の質問を受け付けます。 メールアドレス: kojima@kojima-lab.net

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
看護学原論		BNNSS1L01	202240101	1前	2(30)	必修
担当教員	◎井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院／診療所に勤務		
担当教員	田村葉子	実務歴	有	看護師として病院に10年勤務		
担当教員	鯨坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
概要	‘人間’‘生活’‘健康’‘環境’‘看護’の概念について理解し、看護固有の価値、役割、機能について学ぶことを目的としている。授業では、看護学のパラダイムである 人間、健康、環境、看護 の概念と相互の関連性を概観し、「 看護学 」とは、「 看護 とは」について考究する。また、 看護の歴史 を踏まえ、現代の 看護専門職 としての社会的責任と役割を遂行するための基礎的知識を修得する。					
到達目標	1. ‘人間’‘生活’‘健康’‘環境’‘看護’の概念について理解し、看護とは何かを述べることができる。 2. 看護とは何か、看護師とはどのような専門職かについて述べるができる。 3. 歴史的観点から、現代の看護職者に求められる役割と機能について述べるができる。					
関連科目	人間のライフスパンと発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験(レポート)	61%	到達目標1-40% 到達目標3-21%	定期試験後のレビューで説明		
	課題(事前・事後)	39%	到達目標1-24% 到達目標2-15%	講義中に提出課題及び発表内容等に対する口頭でのフィードバック		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容		予習・復習内容			取組時間
1	ガイダンス ・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーからみた本科目の位置づけ		予習：シラバスを読む。 復習：関係する科目の概要を読む。			予習2時間 復習2時間
2	看護学を学ぶということ		予習：健康とは何かについて調べてくる。 復習：WHO健康の概念。目標1			予習2時間 復習2時間
3	看護の歴史		予習：看護の歴史について図書から知識を得ておく。 復習：理解したことを整理する。目標2			予習2時間 復習2時間
4	看護と法制度		予習：看護の法律について図書から知識を得ておく。 復習：理解したことを整理する。目標2			予習2時間 復習2時間
5	看護と教育		予習：看護教育について図書から知識を得ておく。 復習：理解したことを整理する。目標2			予習2時間 復習2時間
6	看護技術とは何か		予習：看護技術について図書から知識を得ておく。 復習：理解したことを整理する。目標2			予習2時間 復習2時間
7	看護理論からとらえる看護 －ナイチンゲールの看護論		予習：教科書1ナイチンゲール「看護覚え書」 p -p を読む。 復習：ナイチンゲールの”看護とは”について整理し提出。目標1			予習2時間 復習2時間

8	看護理論からとらえる看護 ーヘンダーソンの看護論	予習:教科書2ヘンダーソン「看護の基本となるもの」p ーp ーを読む。 復習:ヘンダーソンの”看護とは”について整理し提出。 目標1	予習2時間 復習2時間
9	看護理論からとらえる看護 ローパー・ローガン・ティアニー生活行動看護モデル	予習:教科書3 p3ー4を読む。 復習:理解したことを整理する。目標1	予習2時間 復習2時間
10	人間と生活ー12の生活行動	予習:教科書3 p4ー6を読む。 復習:生活行動についての課題用紙の提出。目標1	予習2時間 復習2時間
11	人間の健康ーライフスパン・依存-自立度	予習:教科書3 p7ー8を読む。 復習:ライフスパンに影響をうけた生活行動についての課題用紙の提出。目標1	予習2時間 復習2時間
12	人間の環境ー生活行動への影響要因	予習:教科書3 p8ー11を読む。 復習:要因に影響をうけた生活行動についての課題用紙の提出。目標1	予習2時間 復習2時間
13	人間と看護ー看護ケアと看護過程	予習:教科書3 p11ー28を読む。 復習:理解したことを整理する。目標1	予習2時間 復習2時間
14	看護実践と看護研究	予習:看護研究について図書から知識を得ておく。 復習:理解したことを整理する。目標2	予習2時間 復習2時間
15	現代の看護師に求められる役割と機能	予習:今までの学修を踏まえて整理する。 復習:レポート課題。	予習2時間 復習2時間
使用 テキスト	1.川島みどり監訳(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開,エルゼビア・ジャパン 2.Florence Nightingale 湯楨ます 薄井坦子 小玉香津子訳(2011):看護覚え書 改訳第7版 現代社 3.Virginia Henderson 湯楨ます・小玉香津子訳(2016):看護の基本となるもの(再新装版) 日本看護協会出版会 4. ロイノート		
参考図書	1. 久間圭子(2007): ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルの実践 メディカ出版 2. 久間圭子訳(2006): ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル 日本看護協会出版 3. 手島 恵 監修:看護職の基本的責務 2021年版 定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会 4. 薄井坦子(2008):科学的看護論, 第3版, 日本看護協会出版会		
教員に対する質問方法	井上深幸 m_inoue@kyotokango.ac.jp 田村葉子 y_tamura@kyotokango.ac.jp 鯉坂由紀 y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
医療・看護倫理		BNNHN04L02	202240102	1後	1(15)	必修
担当教員	◎三林聖司	実務歴	有	准看護師・看護師として病院に22年勤務		
概要	医療倫理は、 インフォームド・コンセント に象徴されるように患者の権利が認められるなかで医療界に根付いてきたが、その一方で、生命科学や医療技術の進歩とともに絶えず新しい課題と直面しなければならない領域でもある。授業では、医療倫理の理念を踏まえながら、現在に至るまでの歴史的背景と変遷過程を学ぶとともに、医療現場における倫理的課題を取り上げ、課題学習を用いてディスカッションすることで 倫理的感受性 を養う。					
到達目標	1. 看護倫理の歴史的推移を説明できる 2. 倫理とは何か、自分の言葉で説明できる 3. 医療・看護倫理の必要性を説明できる 4. 看護実践における倫理的課題がわかる(情報の取り扱い、意思決定支援、生殖医療、優生思想) 5. 看護実践における倫理的行動を考えることができる					
関連科目	臨地実習科目					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	レポート	100%	到達目標1-20% 到達目標2-20% 到達目標3-20% 到達目標4-20% 到達目標5-20%	授業中に説明する		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	◎	職業倫理と人権擁護	◎
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション	○	適切な看護実践	○
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	序章 I. 専門職と倫理 GW【日常生活における倫理的な問題を考える】			【予習】テキストのpp.1~22を読む。 【復習】課題レポートを作成する		予習 1時間 復習 1時間
2	序章 II. 看護実践に内在している倫理 第1章 I. 変化する医療環境と高まる倫理への感心 GW【事例①における倫理的な問題を考える】			【予習】テキストのpp.23~49を読む。 【復習】課題レポートを作成する。		予習 1時間 復習 1時間
3	第1章 II. 医療の中に人間性を取り戻す 第2章 I. チーム医療における看護 II. 超高齢社会と倫理 GW【事例②における倫理的な問題を考える】			【予習】テキストのpp.53~84を読む。 【復習】課題レポートを作成する。		予習 1時間 復習 1時間
4	第3章 I. 看護基礎教育における倫理的問題 GW【事例③における倫理的な問題を考える】			【予習】テキストのpp.86~117を読む。 【復習】課題レポートを作成する。		予習 1時間 復習 1時間
5	第3章 II. 日常診療における倫理的問題 GW【事例④における倫理的な問題を考える】			【予習】テキストのpp.121~138を読む。 【復習】課題レポートを作成する。		予習 1時間 復習 1時間
6	第4章 I. 看護師であるということ GW【事例⑤における倫理的な問題を考える】			【予習】テキストのpp.154~170を読む。 【復習】課題レポートを作成する		予習 1時間 復習 1時間
7	GW【医療・看護での倫理的問題を考える】まとめる			【予習】課題レポートを作成する。 【復習】課題レポートを作成する。		予習 1時間 復習 1時間
8	GW【医療・看護での倫理的問題を考える】発表			【予習】課題レポートを作成する 【復習】課題レポートを作成する。		予習 0.5時間 復習 0.5時間

使用 テキスト	宮脇美保子『身近な事例で学ぶ看護倫理』 中央法規.
参考図書	授業時に紹介する。
教員に対する質 問方法	三林聖司 メールアドレス:s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
地域包括ケア論		BNNHN02L17	202240301	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	◎井上 深幸	実務歴	有	看護師として病院／診療所に勤務		
担当教員	川嶋 元子	実務歴	有	看護師として病院／訪問看護ステーションに勤務		
概要	健康や看護を広域でとらえる上で必要な「 地域包括ケア 」について学ぶ。地域住民の生活を支える様々な フォーマル、インフォーマルな資源 と、それぞれの 役割 について学修する。さらに、地域生活を支える 社会保障制度・社会福祉の知識 を修得し、保健、医療、福祉等の多職種、多機関が連携・協働している 地域包括ケアシステム についての理解を深める。					
到達目標	1)近年の医療提供体制の動向(医療介護総合確保推進法・医療計画・地域包括ケアシステム・入退院支援)について説明できる。 2)療養生活を支える社会保障・社会福祉制度(介護保険制度, 障害者総合支援法, 医療保険制度に関わること)について説明できる。 3)地域包括ケア時代の継続看護の概念を説明できる。					
関連科目	地域包括ケア論演習 地域包括ケア実習1 地域包括ケア実習2					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	70%	1)20% 2)40% 3)10%	定期試験レビューで説明		
	事前事後学習	30%	1)10% 2)20%	コメントを記載し返却		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容		予習・復習内容			取組時間
1	人々の暮らしと地域		予:人々の暮らしの理解 復:ライフスパンに応じた自己の地域環境について述べる。			予習2時間 復習2時間
2	人々の暮らしの多様性 - 実習にむけて		予:生活と生活行動 復:ローパー生活行動看護モデルに基づく生活行動と環境の関係について述べる。			予習2時間 復習2時間
3	生活に影響する外部環境としての政治経済的要因、環境的要因、社会文化的要因—近年の医療提供体制の動向と地域包括ケアシステム		予:地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 地域包括ケアシステム 復:医療介護総合確保推進法・医療計画 目標1			予習2時間 復習2時間
4	地域包括ケアを推進する入退院支援と継続看護		予:入退院支援 復:入退院支援のしくみと看護師の役割 目標1			予習2時間 復習2時間
5	健康障害を持つ人の暮らしを支える社会保障・社会福祉の制度 -介護保険制度と5つの保険制度		予:介護保険制度 復:介護保険制度の知識の定着 目標2			予習2時間 復習2時間
6	健康障害を持つ人の暮らしを支える社会保障・社会福祉の制度—障害者総合支援法 -実習にむけて		予:障害者総合支援法 復:障害者総合支援法の知識の定着 目標2			予習2時間 復習2時間
7	暮らしを支える社会福祉の制度—6つの福祉制度		予:社会福祉制度 復:社会福祉制度の知識の定着 目標2			予習1時間 復習1時間
8	健康障害を持つ人の暮らしを支えるフォーマル、インフォーマルな社会資源		予:地域探索で発見した社会資源 復:社会資源の種類 目標2			予習2時間 復習2時間
使用テキスト	なし					
参考図書	適宜紹介する。					
教員に対する質問方法	井上深幸 m_inoue@kyotokango.ac.jp 川嶋元子 m_kawashima@kyotokango.ac.jp オフィスアワー 在校生HPを確認					

授業科目		教育課程ナンバー		時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
地域包括ケア論演習		BNNHN03E18		202240302	1後(3T)	1(15)	必修
担当教員	◎繆坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務			
担当教員	川嶋 元子	実務歴	有	看護師として病院に勤務			
概要	地域包括ケア論、および地域包括ケア実習Ⅰの学修を基盤に、様々なライフパンにある地域の人々に対する生活と医療を統合した継続看護の考え方について理解を深める。さらに、対象者のよりよい生活のために、地域の社会資源をコーディネートする方法について学修する。						
到達目標	1. 地域・在宅での暮らしを支えるための社会資源と看護について説明できる 2. 地域・在宅での暮らしを支えるための各職種の役割と連携について説明できる 3. 多機関・多職種が連携した地域包括ケアシステムについて説明できる						
関連科目	地域包括ケア論、地域包括ケア実習1、地域包括ケア実習2						
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法			
	定期試験	70%	到達目標1、2、3-70%	定期試験後のレビューで説明			
	事前・事後課題、授業参画	30%	到達目標1、2、3-30%	コメントを記述し返却もしくは授業時に説明			
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力		
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護		
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎	
回	学修内容			予習・復習内容 *事前課題、事後課題の詳細は別途伝える			取組時間
1	ガイダンス 地域包括ケアシステム 地域・在宅での暮らしを支える法制度			【予習】地域包括ケア論で学習した法制度を復習しておく 【復習】講義・演習内容をまとめる			予習2時間 復習2時間
2	地域・在宅での暮らしを支えるための社会資源と看護1 **ワーク			【予習】提示された個人課題を行う 【復習】グループワークに向けた準備を行う			予習2時間 復習2時間
3	地域・在宅での暮らしを支えるための社会資源と看護2 **グループワーク			【予習】グループワークに向けた準備を行う 【復習】グループで設定した課題を行い、発表に向けた準備を行う			予習2時間 復習2時間
4	地域・在宅での暮らしを支えるための社会資源と看護3 **発表			【予習】グループで設定した課題を行い、発表に向けた準備を行う			予習2時間 復習2時間
5	地域・在宅での暮らしを支えるための社会資源と看護4 **発表			【復習】発表の内容を整理し個人課題に追記する			予習2時間 復習2時間
6	地域・在宅での暮らしを支えるための社会資源と看護5 **まとめ			【予習】提示された課題を行う 【復習】講義・演習内容をまとめる			予習2時間 復習2時間
7	社会資源をつなぐケアマネジメントと多職種連携1			【予習】提示された課題を行う 【復習】講義・演習内容をまとめる			予習2時間 復習2時間
8	社会資源をつなぐケアマネジメントと多職種連携2 まとめ			【予習】提示された課題を行う 【復習】講義・演習内容をまとめる			予習2時間 復習2時間
使用テキスト	ロイロノートスクール						
参考図書	河原加代子(2022):系統看護学講座 専門分野地域・在宅看護論Ⅰ 地域・在宅看護の基盤, 医学書院. その他は講義時に適宜紹介する						
教員に対する質問方法	メールアドレス:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認						

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動逸脱看護1 (コミュニケーションすること)		BNNHN02L24	202240401	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	◎ 繆坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
担当教員	三林 聖司	実務歴	有	准看護師・看護師として病院に22年勤務		
担当教員	中森 美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
担当教員	川嶋 元子	実務歴	有	看護師として病院に勤務		
担当教員	岸 正	実務歴	無	—		
概要	人間の生活行動1の学習を基盤に「コミュニケーションすること」という生活行動の逸脱状態について学修する。ライフスパン、および生物学的要因、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因から理解を深め、個々の人間が生命体として持てる力を最大限に発揮してこれらの生活行動を営めるようになるための看護について学ぶ。					
到達目標	1. 「コミュニケーションすること」が逸脱する状況について、生物学的要因、心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因から説明できる。 2. 「コミュニケーションすること」が逸脱した状況にある人の看護について説明できる。					
関連科目	ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	80%	到達目標1・2-80%	定期試験後のレビューで説明		
	確認テスト、事前・事後課題、授業参画	20%	到達目標1・2-20%	コメントを記述し返却もしくは授業時に説明		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容	取組時間	
1	・講義前に第1、2講の確認テスト I. コミュニケーションすることが逸脱した状況にある人の看護 —成人期、老年期— (病例:難聴、白内障、緑内障)			【予習】 提示された事前課題を行う 【復習】 提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
2	1. 生物学的要因 ・生命、生活への影響 ・各検査、治療と看護 2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因			【予習】 提示された事前課題を行う 【復習】 提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
3	・講義前に第3、4講の確認テスト I. コミュニケーションすることが逸脱した状況にある人の看護 —成人期、老年期— (病例:脳血管障害;クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞、パーキンソン病、認知症)			【予習】 提示された事前課題を行う 【復習】 提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
4	1. 生物学的要因 ・生命、生活への影響 ・各検査、治療と看護 2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因			【予習】 提示された事前課題を行う 【復習】 提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	

5	<p>・講義前に第5講の確認テスト</p> <p>I. コミュニケーションすることが逸脱した状況にある人の看護 —成人期、老年期— (病例:筋委縮性側索硬化症)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学的要因 <ul style="list-style-type: none"> ・生命、生活への影響 ・各検査、治療と看護 2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因 	<p>【予習】提示された事前課題を行う</p> <p>【復習】提示された事後課題を行う</p>	<p>予習2時間</p> <p>復習2時間</p>
6	<p>・講義前に第6講の確認テスト</p> <p>I. コミュニケーションすることが逸脱した状況にある人の看護 —思春期・青年期、成人期— (病例:統合失調症、双極性障害)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学的要因 <ul style="list-style-type: none"> ・生命、生活への影響 ・各検査、治療と看護 2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因 	<p>【予習】提示された事前課題を行う</p> <p>【復習】提示された事後課題を行う</p>	<p>予習2時間</p> <p>復習2時間</p>
7	<p>・講義前に第7講の確認テスト</p> <p>I. コミュニケーションすることが逸脱した状況にある人の看護 —幼児期・小児期— (病例:痙攣性疾患;てんかん・熱性痙攣)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学的要因 <ul style="list-style-type: none"> ・生命、生活への影響 ・各検査、治療と看護 2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因 	<p>【予習】提示された事前課題を行う</p> <p>【復習】提示された事後課題を行う</p>	<p>予習2時間</p> <p>復習2時間</p>
8	<p>II. コミュニケーションすること、および全ての生活行動が逸脱した状況にある人の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学的要因 薬理学:抗精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬 <p>III. まとめ</p>	<p>【予習】提示された事前課題を行う</p> <p>【復習】提示された事後課題を行う</p>	<p>予習2時間</p> <p>復習2時間</p>
使用 テキスト	<p>①坂井建雄(最新刷):系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院. ②坂井建雄(最新刷):系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック, 医学書院. ③井出隆文(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経, 医学書院. ④任和子(最新刷):根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院. ⑤亀井智子(最新刷):根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院. ⑥川島みどり(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開, エルゼピア・ジャパン. ⑦ロイロノートスクール</p>		
参考図書	<p>・菱沼典子(最新刷):看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会.</p>		
教員に対する 質問方法	<p>メールアドレス:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認</p>		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動逸脱看護2 (生命を支えること)		BNNHN03L25	202240402	1後(3T)	2(30)	必修
担当教員	◎川嶋元子	実務歴	有	看護師として病院に7年勤務 訪問看護ステーションに4年勤務		
担当教員	三林 聖司	実務歴	有	准看護師・看護師として病院に22年勤務		
担当教員	田村葉子	実務歴	有	看護師として病院に10年勤務		
担当教員	中森美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
担当教員	岸 正					
概要	人間の生活行動2の学習を基盤に「 食 べることと 飲 むこと」「 排 泄すること」という生活行動の 逸脱状態 について学修する。ライフスパン、および生物学的、心理的、社会文化的、環境的要因から理解を深め、個々の人間が生命体として持てる力を最大限に発揮してこれらの生活行動を営めるようになるための 看護 について学ぶ					
到達目標	1. 「食					
関連科目	看護学原論、ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7、生活行動看護実習1・2					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	70%	到達目標1…15% 到達目標2…20% 到達目標3…15% 到達目標4…20%	定期試験後のレビューで説明		
	事前・事後課題、確認テスト、授業参画	30%	到達目標1…5% 到達目標2…10% 到達目標3…5% 到達目標4…10%	授業時に説明		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人の人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	■ガイダンス ■「食			【予習】 提示された事前課題を行う 【復習】 提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
2						予習2時間 復習2時間
3						予習2時間 復習2時間
4						予習2時間 復習2時間
5						予習2時間 復習2時間
6						予習2時間 復習2時間
7						予習2時間 復習2時間
8	■「食			【予習】 提示された事前課題を行う 【復習】 提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間

9	<p>■「食べることと飲むこと」が逸脱した状況にある人の看護 新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期 1 生物学的要因:代表的な症状・疾患/関連する検査・治療と看護 (口唇裂・口蓋裂) 2 心理的・社会文化的・環境的・政治経済的要因</p>	<p>【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します</p>	<p>予習2時間 復習2時間</p>
10	<p>■「排泄すること」が逸脱した状況にある人の看護 青年期・成人期・老年期 1 生物学的要因:代表的な症状・疾患/関連する検査・治療と看護 (大腸がん、前立腺がん、脊髄損傷) 2 心理的・社会文化的・環境的・政治経済的要因</p>	<p>【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します</p>	<p>予習2時間 復習2時間</p>
11			<p>予習2時間 復習2時間</p>
12			<p>予習2時間 復習2時間</p>
13	<p>■「排泄すること」が逸脱した状況にある人の看護 新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期 1 生物学的要因:代表的な症状・疾患/関連する検査・治療と看護 (ネフローゼ症候群、腸重積など) 2 心理的・社会文化的要因・環境的・政治経済的要因</p>	<p>【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します</p>	<p>予習2時間 復習2時間</p>
14	<p>■薬理学:糖尿病治療薬、痛風治療薬、高脂血症治療薬、制</p>	<p>【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します</p>	<p>予習2時間 復習2時間</p>
15	<p>■「排泄すること」が逸脱した状況にある人の看護のまとめ</p>	<p>【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します</p>	<p>予習2時間 復習2時間</p>
使用 テキスト	<p>1. 坂井建雄(最新刷):系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院. 2. 坂井建雄(最新刷):系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック, 医学書院. 3. 任和子(最新刷):根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院. 4. 亀井智子(最新刷):根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院. 5. 川島みどり(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開, エルゼビア・ジャパン. 6. 茂野香おる(最新刷):系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院. 7. 任和子(最新刷):系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 8. 松田明子(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器, 医学書院. 9. 河邊博史(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器, 医学書院. 10. 臺有桂(最新版):ナーシンググラフィカ在宅療養を支えるケア 地域・在宅看護論①, メディカ出版. 11. 吉岡充弘(最新刷):系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学, 医学書院.</p>		
参考図書	<p>1. 黒江ゆり子(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝, 医学書院. 2. 奈良間美保(最新版):系統看護学講座専門分野 小児看護学② 小児臨床看護各論, 医学書院. 3. 菱沼典子(最新刷):看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会. 4. 臺有桂(最新版):ナーシンググラフィカ在宅療養を支える技術 地域・在宅看護論②, メディカ出版</p>		
教員に対する 質問方法	<p>メールアドレス:川嶋元子 m_kawashima@kyotokango.ac.jp 三林 聖司:s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp 田村葉子 y_tamura@kyotokango.ac.jp 中森 美季:m_nakamori@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認</p>		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動逸脱看護3		BNNHN04L26	202240403	1後(4T)	2	必修
担当教員	◎ 中森 美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
担当教員	田村 葉子	実務歴	有			
担当教員	三林 聖司	実務歴	有			
担当教員	川嶋 元子	実務歴	有	看護師として病院に7年・訪問看護ステーションに4年勤務		
担当教員	南 好江	実務歴	有			
概要	人間と生活行動3の学修を基盤に、「 <u>動くこと・眠ること・身体を清潔にし身支度を整えること</u> 」という生活行動の 依存状態 について学修する。ライフスパンおよび生物学的、心理的、社会文化的、環境的要因から理解を深め、 個人の間が生命体として持てる力を最大限に発揮してこれらの生活行動を営めるようになるための看護 について学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「動くこと」が逸脱する状況について、各ライフスパンの特徴をふまえて、生物学的、心理的、社会部窩的、環境的、政治経学的的要因から説明できる。 「動くこと」が逸脱する状況に対して対象の持つ力を最大限に発揮できる支援について説明できる。 「眠ること」が逸脱する状況について各ライフスパンの特徴をふまえて、生物学的、心理的、社会部窩的、環境的、政治経学的的要因から説明できる。 「眠ること」が逸脱する状況に対して対象の持つ力を最大限に発揮できる支援について説明できる。 「身体を清潔にし身支度を整えること」が逸脱する状況について各ライフスパンの特徴をふまえて、生物学的、心理的、社会部窩的、環境的、政治経学的的要因から説明できる。 「身体を清潔にし身支度を整えること」が逸脱する状況に対して対象の持つ力を最大限に発揮できる支援について説明できる。 					
関連科目	看護学原論、ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7、薬理学、病理学、生活行動看護実習1・2、地域包括ケア実習3					
成績評価	種別	割合(%)	到達目標に対しての評価基準等			
	定期試験(筆記)	70%	到達目標1-20% 到達目標2-10% 到達目標3-5% 到達目標4-5% 到達目標5-17% 到達目標6-13%	定期試験後のレビュー		
	事前・事後学修課題 確認小テスト 授業への参画	30%	到達目標1～6:30%	各講義時間		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
				○		

回	学修内容	予習・復習内容	取組時間
1	<p>■「動くこと」が依存する状況とは ・「動くこと」の依存と影響要因</p> <p>■「動くこと」が依存する状況に対する看護：成人期・老年期①</p> <p>1. 生物学的要因： 1)代表的な症状：運動機能障害【麻痺、四肢の変形、歩行障害、振戦、動作緩慢、姿勢保持障害など】、高次脳機能障害など 2)代表的な疾患：脳梗塞・脊髄損傷・関節リウマチ、パーキンソン病など 3)関連する検査・治療と看護 4)生活への影響と看護</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/事後各2時間
2	<p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p>		事前/事後各2時間
3	<p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p>		事前/事後各2時間
4	<p>■「動くこと」が依存する状況に対する看護：乳児期・幼児期・学童期・思春期</p> <p>1. 生物学的要因： 1)代表的な症状・状況：発育不全、形態の異常など 2)代表的な疾患（発育性股関節形成不全、先天性内反足、ダウン症など） 3)関連する検査・治療と看護 4)生活への影響と看護</p> <p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/事後各2時間
5	<p>■「動くこと」が依存する状況に対する看護：成人期・老年期②</p> <p>1. 生物学的要因： 1)代表的な状況：治療上の制限により動くことが逸脱した状態（安静、固定など） 2)代表的な治療：手術療法、ギプス固定、牽引療法など 3)代表的な合併症：廃用症候群など 4)生活への影響と看護</p> <p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/事後各2時間
6	<p>■「動くこと」が依存する状況に対する看護：成人期・老年期③</p> <p>1. 生物学的要因： 1)代表的な症状：疼痛、加齢による骨・筋肉・関節への影響など 2)代表的な疾患：骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症など 3)関連する検査・治療と看護 4)生活への影響と看護</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/事後各2時間
7	<p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p> <p>■「動くこと」が依存する状況に対する看護：まとめ</p>		事前/事後各2時間

8	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」が依存する状況とは ・「身体を清潔にし身支度を整えること」の依存と影響要因</p> <p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」が依存する状況に対する看護:成人期・老年期①</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/ 事後各 2時間
9	<p>1. 生物学的要因: 1)代表的な症状や状況:発疹、潰瘍、疼痛、掻痒など 2)代表的な疾患:褥瘡、熱傷、糖尿病、老人性乾皮症など 3)関連する検査・治療と看護 4)生活への影響と看護</p>		事前/ 事後各 2時間
10	<p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p>		事前/ 事後各 2時間
11	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」が依存する状況に対する看護:乳児期、幼児期、学童期、思春期</p> <p>1. 生物学的要因: 1)代表的な症状:疼痛、掻痒、発赤、水疱、腫脹など 2)代表的な疾患:アトピー性皮膚炎など 3)関連する検査・治療と看護 4)生活への影響と看護</p> <p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/ 事後各 2時間
12	<p>■薬理学 ・抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/ 事後各 2時間
13	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」が依存する状況に対する看護:成人期・老年期②</p> <p>1. 生物学的要因: 1)代表的な状況:手術創、ドレーン留置、人工肛門、膀胱皮膚瘻など 2)代表的な疾患:直腸がん、膀胱がんなど 3)関連する検査・治療と看護 4)生活への影響と看護</p> <p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p> <p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」が依存する状況に対する看護:まとめ</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/ 事後各 2時間

14	<p>■「眠ること」が依存する状況とは ・「眠ること」の依存と影響要因</p> <p>■「眠ること」が依存する状況に対する看護: 1. 生物学的要因: 1)代表的な症状:睡眠障害 2)代表的な疾患:ナルコレプシー、レム睡眠行動障害、気分障害(双極性障害・うつ病)など 3)関連する検査・治療と看護 4)生活への影響と看護</p>	<p>【予習】 1)提示された課題に取り組む</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容で理解したことを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)提示された課題について取り組む</p>	事前/ 事後各 2時間
15	<p>2. 心理的要因、社会文化的要因、環境的要因、政治経済的要因</p> <p>■「眠ること」が依存する状況に対する看護:まとめ</p>		事前/ 事後各 2時間
使用 テキスト	人間と生活行動3に準ずる		
参考図書	人間と生活行動3に準ずる		
教員に対する 質問方法	メールアドレス:m_nakamori@kyotokango.ac.jp(中森)、y_tamura@kyotokango.ac.jp(田村)、s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp(三林)、m_kawashima@kyotokango.ac.jp(川嶋) オフィスアワー 在校生HPを確認		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動看護演習1 (コミュニケーションすること)		BNNHN02E31	202240408	1前(2T)	1(15)	必修
担当教員	◎鯉坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
担当教員	三林 聖司	実務歴	有	准看護師・看護師として病院に22年勤務		
担当教員	田村 葉子	実務歴	有	看護師として病院に10年勤務		
担当教員	中森 美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
担当教員	川嶋 元子	実務歴	有	看護師として病院に勤務		
概要	人間と生活行動1、および生活行動逸脱看護1の学習を基盤とし、あらゆるライフスパン、生活の場、健康状態を踏まえ、「コミュニケーションすること」という生活行動の看護実践について学修する。本授業では、主にグループワークを通して援助を実施し、評価、改善する 思考と実践 を学ぶ。					
到達目標	1. ライフスパン、生活の場、健康状態に応じた「コミュニケーションすること」を実践することができる。 2. 「コミュニケーションすること」に影響する生物学的要因の情報を収集するフィジカルアセスメント技術を実践することができる。 3. 環境的要因の観点から感染防止の技術を実践することができる。					
関連科目	ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対するの評価	評価に対するフィードバック方法		
	定期試験	80%	到達目標1、2、3－80%	定期試験後のレビューで説明		
	事前・事後課題、授業参画	20%	到達目標1、2、3－20%	コメントを記述し返却もしくは授業時に説明		
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容 ※事前に「演習要項」をUPする。その要項に記載している事前・事後課題を確認すること	取組時間	
1	I. ライフスパン、生活の場、健康状態に応じたコミュニケーション－社会文化的要因、政治経済的要因、環境的要因の観点から－ 1. 病院(・外来)、施設、在宅でのコミュニケーション 2. 個人情報保護、守秘義務			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
2				【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
3				【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
4	II. ライフスパン、生活の場、健康状態に応じたコミュニケーション－環境的要因の観点から－ 1. 標準予防策 2. 感染性廃棄物の取り扱い			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
5				【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
6	III. コミュニケーションすることに影響する生物学的要因の情報を収集する方法－フィジカルアセスメント技術－ 意識状態、瞳孔・対光反射、平衡機能、聴覚検査			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
7				【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	
8	IV. まとめ 「人間と生活行動1」「生活行動逸脱看護1」「生活行動看護演習1」のまとめ			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う	予習2時間 復習2時間	

<p>使用 テキスト</p>	<p>①坂井建雄(最新刷):系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院. ②坂井建雄(最新刷):系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック, 医学書院. ③井出隆文(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経, 医学書院. ④任和子(最新刷):根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院. ⑤亀井智子(最新刷):根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院. ⑥川島みどり(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開, エルゼビア・ジャパン. ⑦ロイノートスクール</p>
<p>参考図書</p>	<p>・菱沼典子(最新刷):看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会.</p>
<p>教員に対する 質問方法</p>	<p>メールアドレス:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認</p>

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動看護演習2 (生命を支えること)		BNNHN03E32	202240409	1後(3T)	4(60)	必修
担当教員	◎川嶋 元子	実務歴	有	看護師として病院に7年勤務 訪問看護ステーションに4年勤務		
担当教員	三林 聖司	実務歴	有	准看護師・看護師として病院に22年勤務		
担当教員	田村 葉子	実務歴	有	看護師として病院に10年勤務		
担当教員	鯉坂 由紀	実務歴	有	看護師として病院に3年勤務		
担当教員	中森 美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
概要	人間と生活行動2、および生活行動逸脱看護2の学習を基盤とし、「 食 べることと 飲 むこと」「 排 泄すること」という生活行動の看護実践について学修する。あらゆるライフスパン、生活の場、健康状態を踏まえ、 安全、安楽、自立、自律 を基盤とし科学的根拠に基づいた看護の方法を創出し、実施、評価、改善する 思考と実践 を学ぶ。本授業では、グループワークを中心に援助を創出し、学生同士で体験し、対象者の立場で評価を行う					
到達目標	1.「食					
関連科目	看護学原論、ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7、生活行動看護実習1.2					
成績評価	評価種別	割合(%)	到達目標に対する評価		評価に対するフィードバック方法	
	定期試験	70%	到達目標1…10% 到達目標2…25% 到達目標3…10% 到達目標4…25%		定期試験後のレビューで説明	
DPとの対応	事前・事後課題、 授業参画	30%	到達目標1…5% 到達目標2…10% 到達目標3…5% 到達目標4…10%		授業時に説明	
	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践 ◎	
回	学修内容			予習・復習内容		取組時間
1	■ガイダンス ■症状・生体機能管理技術 血糖測定・インシュリン自己注射 ・グループで援助を実施し、評価、改善する			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
2	■「食			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
3	1. 食事介助 2. 口腔ケア 3. 嚥下訓練			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
4	・グループで援助を実施し、評価、改善する			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
5	■与薬の技術 1. 正しい与薬の方法			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
6	2. 薬の管理			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
7	■食事援助技術 1. 経鼻経管栄養法			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
8	2. 胃ろう ・グループで援助を実施し、評価、改善する			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
9	■「排			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
10	■排泄援助技術(排便) 1. 自然な排便を促す援助:腹部マッサージ、腰背部温電法 2. グリセリン浣腸			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
11	◇グループで援助を実施し、評価、改善する			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
12	■ス			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
13	■感染防止の技術 1. 洗浄・消毒・滅菌 2. 無菌操作:滅菌物の取り扱い(滅菌パックの開け方、消毒綿球の取り扱い方、滅菌手袋の着脱)			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間
14	3. 感染性廃棄物の取り扱い			【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します		予習2時間 復習2時間

15	■「排泄すること」のフィジカルアセスメント		予習2時間 復習2時間
16	■排泄援助技術(排尿) 1. 自然な排尿を促す援助 2. 導尿 3. 膀胱留置カテーテル	【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します	予習2時間 復習2時間
17	◇グループで援助を実施し、評価、改善する		予習2時間 復習2時間
18	■排尿の援助	【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します	予習2時間 復習2時間
19	オムツ交換		予習2時間 復習2時間
20	■与薬の技術① 1. 皮下注射		予習2時間 復習2時間
21	■感染防止の技術 1. 針刺し防止策	【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します	予習2時間 復習2時間
22	■安全確保の技術 1. 患者誤認防止 ・グループで援助を実施し、評価、改善する		予習2時間 復習2時間
23	■与薬の技術② 1. 筋肉内注射		予習2時間 復習2時間
24	■感染防止の技術 1. 針刺し防止策	【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します	予習2時間 復習2時間
25	■安全確保の技術 1. 患者誤認防止 ・グループで援助を実施し、評価、改善する		予習2時間 復習2時間
26	■与薬の技術③ 1. 点滴静脈内注射 2. 輸液ポンプの管理		予習2時間 復習2時間
27	■感染防止の技術 1. 針刺し防止策	【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します	予習2時間 復習2時間
28	■安全確保の技術 1. 患者誤認防止		予習2時間 復習2時間
29	・グループで援助を実施し、評価、改善する		予習2時間 復習2時間
30	■まとめ	【予習】提示された事前課題を行う 【復習】提示された事後課題を行う ※ 課題は別途提示します	予習2時間 復習2時間
使用 テキスト	1. 坂井建雄(最新刷):系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院. 2. 坂井建雄(最新刷):系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック, 医学書院. 3. 任和子(最新刷):根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院. 4. 亀井智子(最新刷):根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院. 5. 川島みどり(2006):ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開, エルゼビア・ジャパン. 6. 茂野香おる(最新刷):系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院. 7. 任和子(最新刷):系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 8. 松田明子(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器, 医学書院. 9. 河邊博史(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器, 医学書院. 10. 臺有桂(最新版):ナーシンググラフィカ在宅療養を支えるケア 地域・在宅看護論①, メディカ出版.		
参考図書	1. 黒江ゆり子(最新刷):系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝, 医学書院. 2. 奈良間美保(最新版):系統看護学講座専門分野 小児看護学② 小児臨床看護各論, 医学書院. 3. 菱沼典子(最新刷):看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ, 日本看護協会出版会. 4. 臺有桂(最新版):ナーシンググラフィカ在宅療養を支える技術 地域・在宅看護論②, メディカ出版		
教員に対する 質問方法	メールアドレス:川嶋元子 m_kawashima@kyotokango.ac.jp 三林 聖司:s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp 田村葉子 y_tamura@kyotokango.ac.jp 鯨坂 由紀:y_ajisaka@kyotokango.ac.jp 中森 美季:m_nakamori@kyotokango.ac.jp オフィスアワー:在校生HPを確認		

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
生活行動看護演習3		BNNHN04E33	202240410	1後(4T)	4	必修
担当教員	◎ 中森 美季	実務歴	有	看護師として病院に5年勤務		
担当教員	鯉坂 由紀	実務歴	有			
担当教員	田村 葉子	実務歴	有			
担当教員	三林 聖司	実務歴	有			
担当教員	川嶋 元子	実務歴	有	看護師として病院に7年・訪問看護ステーションに4年勤務		
担当教員		実務歴	有			
概要	人間と生活行動3および生活行動逸脱看護3の学修を基盤に、「動くこと・眠ること・身体を清潔にし身支度を整えること」という生活行動について、ライフスパン、対象者が生活するあらゆる場、あらゆる健康状態を踏まえ、 安全、安楽、自立・自律を基盤に、対象者を尊重して、科学的根拠に基づいた看護の方法を創出し、実施、評価、改善する思考と実践 を学ぶ。グループワークを中心に、必要な援助を創出し、学生同士で体験し、対象者の立場での評価を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「動くこと」に対するフィジカルイグザミネーションが実践できる。 2. 「動くこと」に対する看護について、安全・安楽・自立・自立をふまえて、実践、評価、改善策の考案ができる。 3. 「眠ること」に対するフィジカルイグザミネーションが実践できる 4. 「眠ること」に対する看護について、安全・安楽・自立・自立をふまえて、実践、評価、改善策の考案ができる。 5. 「身体を清潔にし身支度を整えること」に対するフィジカルイグザミネーションが実践できる 6. 「身体を清潔にし身支度を整えること」に対する看護について、安全・安楽・自立・自立をふまえて、実践、評価、改善策の考案ができる。 					
関連科目	看護学原論、ライフスパンと人間発達、人間と生活行動1～7、生活行動逸脱看護1～7、生活行動看護演習1～7、生活行動看護実習1・2、地域包括ケア実習3					
成績評価	種別	割合(%)	到達目標に対するの評価基準等			
	定期試験(筆記)	70%	到達目標1-4% 到達目標2-24% 到達目標3-2% 到達目標4-2% 到達目標5-5% 到達目標6-33%	定期試験後のレビュー		
	実技確認テスト	30%	到達目標1～6:30%	実技確認テスト後のフィードバック		
※定期試験、技術試験の両方もが60%以上であれば、単位が修得できます。 したがって、60%未満であれば、定期試験、技術試験それぞれ再試験対象となります。						
DPとの対応	智をいつくむ力		人をいつくむ力		命をいつくむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	
回	学修内容		予習・復習内容			取組時間
1	■「動くこと」の観察と仕組みの理解: 高齢者体験		【予習】 1)提示された課題について取り組む 【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む			事前/ 事後各 2時間

2	<p>■「動くこと」の観察と仕組みの理解:関節可動域(ROM)、徒手筋力テスト(MMT)、他動・自動運動</p>	<p>【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習</p>	事前/事後各2時間
3	<p>■「動くこと」に対する看護1:体位、体位変換、ポジショニング、ボディメカニクスの活用</p>	<p>【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習</p>	事前/事後各2時間
4	<p>・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案</p>	<p>【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習</p>	事前/事後各2時間
5			事前/事後各2時間
6	<p>■「動くこと」に対する看護2:歩行援助(杖、歩行器)、移乗・移送(車いす、ストレッチャー)</p>	<p>【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習</p>	事前/事後各2時間
7	<p>・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案</p>	<p>【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習</p>	事前/事後各2時間
8			事前/事後各2時間
9	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」の観察と影響要因の理解:体位と体圧</p>	<p>【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習</p> <p>【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習</p>	事前/事後各2時間
10	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」の看護1:清潔な環境の調整;環境整備、ベッドメイキング、シーツ交換</p>	<p>【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習</p>	事前/事後各2時間
11	<p>・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案</p>	<p>【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習</p>	事前/事後各2時間
12			事前/事後各2時間
13	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」の看護2:寝衣交換</p>	<p>【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習</p>	事前/事後各2時間
14	<p>・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案</p>	<p>【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習</p>	事前/事後各2時間
15			事前/事後各2時間
16	<p>■「身体を清潔にし身支度を整えること」の看護3:入浴介助、全身清拭・部分清拭</p>	<p>【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習</p>	事前/事後各2時間
17	<p>・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案</p>	<p>【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習</p>	事前/事後各2時間
18			事前/事後各2時間

19	■「身体を清潔にし身支度を整えること」の看護5: 洗髪 ・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案	【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習	事前/事後各2時間
20		【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習	事前/事後各2時間
21			事前/事後各2時間
22	■「身体を清潔にし身支度を整えること」の看護4: 整容、口腔ケア、部分浴(手浴・足浴)、陰部洗浄とオムツ交換 ・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案	【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習	事前/事後各2時間
23		【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習	事前/事後各2時間
24			事前/事後各2時間
25	■「身体を清潔にし身支度を整えること」の看護6: 創傷処置、ドレーンの固定 ・原理、原則に基づいた基本的な技術の実践と改善策の考案 ・ライフスパン、5つの影響要因に応じた援助の考案と実践、評価、改善策の考案	【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習	事前/事後各2時間
26		【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習	事前/事後各2時間
27			事前/事後各2時間
28	■「動くこと」に対する看護3:実技試験 ※1・2時間目、3・4時間目でクラス分けします	【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習	事前/事後各2時間
29		【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習	事前/事後各2時間
30	■「眠ること」の観察:睡眠日誌と健康教育	【予習】 1)提示された課題について取り組む 2)提示されている技術について自己練習 【復習】 1)事前課題に講義内容での学びを追加・整理する 2)講義終了時に挙げた自己の学習課題に取り組む 3)実践可能なレベルまで技術の自己練習	事前/事後各2時間
使用テキスト	人間と生活行動3に準ずる		
参考図書	人間と生活行動3に準ずる		
教員に対する質問方法	メールアドレス:m_nakamori@kyotokango.ac.jp(中森)、y_ajisaka@kyotokango.ac.jp(鯉坂)、y_tamura@kyotokango.ac.jp(田村)、s_mitsubayashi@kyotokango.ac.jp(三林)、m_kawashima@kyotokango.ac.jp(川嶋) オフィスアワー 在校生HPを確認		

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
人間のライフスパンと生活行動実習1 (人々の健康ニーズ)	BNNHN02P40	202240417	1前	1(30)	必修	
担当教員	◎鯨坂 由紀、その他複数の教員で担当					
概要	地域に密着した医療機関の 外来を利用する様々なライフスパンにある人々 とのコミュニケーションを試みて、人々がどのような 健康のニーズ を持ち、どのような 環境 でどのように健康の保持・増進、疾病予防のために 生活行動 を工夫しているのか、医療機関周辺 地域 の探索も踏まえて理解する。					
到達目標	実習要綱・要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	○

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
地域包括ケア実習1 (地域でくらす人々と地域包括ケアシステム)	BNNHN03P42	202240419	1後	1(30)	必修	
担当教員	◎鯨坂 由紀、その他複数の教員で担当					
概要	地域中核病院の 地域連携・入退院支援部署での支援 の実際を理解する。また、地域中核病院を拠点とし、医療、保健、福祉に関わる機関に焦点をあてて 地域 を探索する。そして、 地域で生活する様々なライフパンにある人々のための地域包括ケアシステム を理解する。					
到達目標	実習要綱・要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	○

授業科目	教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択	
地域包括ケア実習2 (ケアニーズをもつ人々と地域包括ケアシステム)	BNNHN04P43	202240420	1後	1(30)	必修	
担当教員	◎鯨坂 由紀、その他複数の教員で担当					
概要	地域に密着した医療機関において、地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制について理解する。また、利用者との関わりを通して、どのようなニーズがあり、 <u>地域包括ケアシステムによりどのように生活が保障されているか</u> について考察する。					
到達目標	実習要綱・要項参照					
成績評価						
学修内容						
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	○
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	○